研究報告書第51号
Ｇ１１－０２

進路の選択・決定にかかわる能力の育成に関する研究

――高等学校における進路指導――

１９８９．３

山形県教育センター

（資料整理カードＧ 11－02）

研究報告書第 51 号（平成元年３月刊）

進路の選択・決定にかかわる能力の育成に関する研究

― 高等学校における進路指導 ―

山形県教育センター

目　　次

Ⅰ　研究の趣旨
1.　研究のねらい
2.　研究の趣旨
Ⅱ　研究のすすめ方
1.　第１年次の研究（昭和６２年度）
2.　第２年次の研究（昭和６３年度）
・本研究の構造図
Ⅲ　研究の内容
1.　調査結果の分析と考察
(1)　分析の基本的な視点
(2)　対象者の属性
(3)　進路指導の理念に関する教師の意識
(4)　進路指導計画の実態と計画に関する教師の意識
(5)　進路指導の理念と計画および実践にかかわる意識
(6)　進路指導推進組織の実態と教師の意識
(7)　進路指導活動にかかわる教師の意識
(8)　進路に関する生徒の意識と教師の生徒理解
(9)　高校生の生活意識
2.　高校生の進路選択と決定にかかわる能力の育成を図るために
(1)　進路指導の理念と計画・実践の統合
(2)　特別活動における進路指導の実践
(3)　校内における進路指導推進体制の確立
(4)　校外の諸機関との連携
(5)　進路指導活動の評価
Ⅳ　研究のまとめとこれからの課題
1.　研究のまとめ
2.　これからの課題

〔資料〕
調査票１　高校生の生活と進路についての調査
調査票２　高等学校における進路指導についての調査
調査票３　進路指導についての調査

研　究　の　概　要

Ⅰ　研究のねらい

県内の公立高等学校における進路指導の実態について把握し、進路指導上の問題点を明らかにするとともに、生徒の進路選択・決定能力を育成するための方策について探る。

Ⅱ　研究の趣旨

「自分はどう生きるか」ということを生徒に問い続ける進路指導が、いま期待されているのではないだろうか。就職や進学のための指導、助言も、進路指導における重要な一分野ではあるが、大事なことは、生徒の進路選択・決定の過程で、教師がどうかかわっていくかということであろう。本研究では、高等学校の生徒や教師を対象に調査を行い考察を加えながら問題点を明らかにするとともに、望ましい進路指導のあり方を探る。

Ⅲ　研究のすすめ方

1. 第１年次（昭和６２年度）

地域や学科等を考慮して抽出した県内公立高等学校の生徒約２０００人と、全進路指導主事を対象に質問紙調査を行い、それらを分析し考察を加えながら進路指導上の問題点を明確にする。

2. 第２年次（昭和６３年度）

前年度の調査結果と、県内公立高等学校の教師約５５０人を対象に 実施した質問紙調査の結果を総合的に分析し、高等学校における望ましい進路指導のあり方を探る。

Ⅳ　研究の要約と今後の課題

１　研究の要約

(1)　調査結果の分析と考察

①　おおかたの教師は、進路指導の「基本理念」に賛成しているが、それに基づいて実践していると答えた教師は３分の１にすぎない。

②　進路指導に自信があると答えた教師は約半数であり、それは年齢が高いほど顕著である。

③　進路指導上の相談相手として進路指導部（課）の教員をあげた教師は、半数強である。

④　ホームルーム担任の進路に関する年間授業時間数は、低学年の担任ほど少ない。

⑤　生徒にとって、職業観が高まるような体験の機会が少ない。

⑥　約３０％の生徒は将来について「不安」と答えているが、それに関する教師の理解度は低い。

⑦　現代の社会構造を否定的に見ている生徒が、かなり多い。

(2)　高校生の進路選択と決定にかかわる能力の育成を図るために

①　教師は、進路指導の理念について改めて確認することが必要である。

②　特別活動は、生徒にとって自己の「生き方」を高めるよい機会である。ホームルームや生徒会、学校行事等における教師の工夫を期待したい。

③　校内における望ましい進路指導推進体制を確立したいものである。特に学校経営という大きな観点から、進路指導部（課）やホームルーム担任の役割を見直し改善したいものである。

④　小学校・中学校教員と情報交換を組織的に行うとともに、社会教育関係の機関・団体等とも大いに連携した進路指導でありたい。

⑤　進路指導について、学校・進路指導部（課）・学年・ホームルーム担任は、年度内にきちんとした評価を行い、次年度の指導に生かしたいものである。

２　今後の課題

学校が「生き方」を考えさせる進路指導に取り組むとき、全教職員の共通理解を深め協力体制を確立することは大事なことである。今後は、学習指導や生徒指導の面から「生き方」指導のあり方について考えてみたい。

は　し　が　き

高等学校を卒業した生徒は、職業人として、また大学・短大等の学生としてそれぞれの選択した道を歩み始める。生徒の「生き方」を指導・援助することを進路指導の「基本理念」ととらえるとき、個々の生徒が高等学校の３年間の生活で自己理解や職業理解を深め、将来の生き甲斐を見出だして卒業することができれば、教師冥利に尽きるのではないだろうか。

学校におけるさまざまな教育活動は、生徒の進路意識を形成するうえで重要な意味をもっている。人生観が高まるような教材を用いた教科学習や特別活動・学校行事等における生徒の諸活動は、共存・共生の社会というものを自覚したり、たくましく生きる力を身につけるうえで絶好の機会であるといえよう。そのような観点に立った教師の日常的な教育実践こそ、本来の進路指導といえるのではないだろうか。

生徒の就職や進学等について、教師が指導・助言にあたることは重要な教育活動であるといえる。しかし、それのみが進路指導のすべてでないことは当然である。進路指導で大事なことは、生徒が進路を選択し決定する過程において、教師がどう働きかけるかということではないだろうか。人生の岐路に立つ生徒に対し、「将来どう生きるか」ということを教師は真剣に訴えたいものである。

ところで、生徒の進路選択・決定については、生徒の親や地域の人々の果たす役割も大きいものがある。「生涯教育」が叫ばれている今日、教師は家庭や地域の教育力を信じ、相互の連携を図りながら進路指導にあたりたいものである。

なお、当教育センターでは昭和６２年３月にも、中学校の進路指導に関する研究報告書を刊行したが、本書と同様「生き方」指導の必要性を強調しているので、併せてお読みいただければ幸いである。

この調査研究に御協力いただいた学校の教職員・生徒の皆様には厚くお礼を申しあげる次第である。

平成元年３月

山形県教育センター所長
曽　根　伸　良

研究担当者

指導主事　高橋惟文
〃　佐藤利重
〃　小田島健男
〃　渡部真二
〃　遠藤正男（昭和62年度）
〃　地主友昭（昭和62年度）
〃　中鉢鉄太郎（昭和62年度）

目　次

Ⅰ　研究の趣旨 …… 1
1. 研究のねらい …… 1
2. 研究の趣旨 …… 1
Ⅱ　研究のすすめ方 …… 2
1. 第1年次の研究（昭和62年度） …… 2
(1) 研究のねらい …… 2
(2) 研究の方法 …… 2
2. 第2年次の研究（昭和63年度） …… 3
(1) 研究のねらい …… 3
(2) 研究の方法 …… 3
・本研究の構造図 …… 4
Ⅲ　研究の内容 …… 6
1. 調査結果の分析と考察 …… 6
(1) 分析の基本的な視点 …… 6
(2) 対象者の属性 …… 6
(3) 進路指導の理念に関する教師の意識 …… 7
(4) 進路指導計画の実態と計画に関する教師の意識 …… 8
(5) 進路指導の理念と計画および実践にかかわる意識 …… 9
(6) 進路指導推進組織の実態と教師の意識 …… 11
(7) 進路指導活動にかかわる教師の意識 …… 13
(8) 進路に関する生徒の意識と教師の生徒理解 …… 14
(9) 高校生の生活意識 …… 19
2. 高校生の進路選択と決定にかかわる能力の育成を図るために …… 24
(1) 進路指導の理念と計画・実践の統合 …… 24
(2) 特別活動における進路指導の実践 …… 25
① ホームルーム担任による進路指導の実践 …… 25
② ロングホームルームのテーマ例と授業展開例 …… 26
③ その他の特別活動や学校行事における進路指導の実践 …… 32
(3) 校内における進路指導推進体制の確立 …… 33
(4) 校外の諸機関との連携 …… 34
(5) 進路指導活動の評価 …… 35
Ⅳ　研究のまとめとこれからの課題 …… 37
1. 研究のまとめ …… 37
2. これからの課題 …… 37

〔資料〕
調査票1　高校生の生活と進路についての調査
調査票2　高等学校における進路指導についての調査
調査票3　進路指導についての調査

Ⅰ 研　究　の　趣　旨

1　研究のねらい

中学校・高等学校の一貫した進路指導という観点から、県内の公立高等学校における進路指導の実態について把握し、進路指導上の問題点を明らかにするとともに、生徒の進路選択・決定能力を育成するための方策について探る。

2　研究の趣旨

文部省がまとめた昭和63年度の学校基本調査によれば、本県における昭和63年3月の中学校卒業生徒の高等学校進学率は97.1％であった。これは全国的に見ると、富山県の98.3％に次ぐ高率である。しかし、高等学校に入学後、卒業せずに中途で退学する生徒は、公・私立を合わせて例年約900人にも及んでいる。その数は、他県に比して特に多いわけではないが、学校や教師の進路指導のあり方を見直し改善することにより、減少が期待できるものと思う。また、本県における高等学校卒業生徒の大学進学率が、他県と比較し極めて低いことや生徒の学力に関する様々な指摘があることも事実である。

以上述べたように、高等学校の進路指導について克服すべき課題は決して少なくない。

昭和63年度、山形県教育委員会は、特に高等学校普通科の活性化を目指した施策を大きく打ち出した。それは各学校や教師に対し、学力向上等に向けた真剣な取り組みを促すことになり、それは着実に成果があらわれているようである。

ところで、本来の進路指導とは果たしてどのようなものなのだろうか。これは、当教育センターが昭和60年度から取り組んできたテーマでもある。本研究は今年度で4年目を迎えたが、最初の2年間は中学校、後半の2年間は高等学校における進路指導についての調査・研究を行った。その結果、進路指導の本来のねらいは、生徒に対し進路の選択・決定能力を教師が育成することにあるという結論に達した。そこで、進学・就職の指導のみに重点を置きすぎたきらいのある従来の進路指導を見直すことが求められてくる。すなわち、生徒に対し「自分はどう生きるか」という、いわゆる「生き方」を真剣に考えさせる進路指導が期待されてくるのではないだろうか。

生徒に対して「生き方」を考えさせる進路指導は、これまでやや手薄であったと言えよう。そこで学校や教師は生徒の入学直後から、「何のために学ぶのか」「真の学問とは何か」「生きがいを見いだせる職業は何か」「職業が果たす社会的役割は何か」等々の視点に立った進路指導について、計画的組織的に取り組むべきである。そのことを抜きにしては、進路の選択・決定能力を向上させたり、中途退学の減少や学力の向上という課題の解決は困難なのではないだろうか。

本研究では、高等学校における進路指導について生徒や教師を対象とした調査を行い考察を加えるとともに、生徒の進路意識や学校・教師の進路指導に関する問題点を洗い出し、望ましい進路指導のあり方を探ることにした。

II 研究のすすめ方

本研究をすすめるにあたって、次にあげる３つの観点に立ち、取り組むことにした。

第一に、将来の進路を選択し決定しようとしている高校生自身がどのような考えをもって日常生活を過ごしているのであろうか。彼等の生活意識を探る必要があるという観点である。

第二に、高等学校における進路指導はどのような実態にあるのだろうか。校内における進路指導の中核的な役割を担っている進路指導主事をとおして、その実態を把握する必要があるという観点である。

第三に、教師がどのような考えにたって進路指導を実践しているのであろうか。進路指導は学校における全ての教師によって行われるものであるという考えから、教師の進路指導に関する意識を明らかにする必要があるという観点である。

本研究は、昭和６２年度からの継続研究であり、各年次の具体的なすすめ方は次のとおりである。

１　第１年次研究（昭和62年度）のすすめ方

（1）研究のねらい

前述の三つの観点のうち、第１年次は高校生の生活や進路に関する意識を明らかにすることと、高等学校における進路指導の実態を把握することに主眼をおいて取り組むこととし、その結果から進路指導上の問題点を明確にしようとするものである。

（2）研究の方法

上記のねらいを達成するために、高校生の生活と進路についての調査と高等学校における進路指導についての調査を実施した。

①「高校生の生活と進路についての調査」の実施

ア　調査対象者

県内公立高校の第２学年生徒を母集団とし、そこから抽出した高校生

イ　調査の方法

高校生の生活をＫＪ法により分析し、調査項目を設定した。その項目を基本にして調査票を作成し、調査対象校（２４校）に郵送。記入済みの調査票を学校ごと一括返送してもらう方法を採用した。

ウ　調査の実施時期　　昭和６３年１月１８日～２月１３日

エ　調査票の回収状況

配布調査票　２００６票　　回収調査票　１９１８票　　回収率　９５.７％

②「高等学校における進路指導についての調査」の実施

ア　調査対象者

県内の全ての公立高等学校（全日制のみ）の進路指導主事

イ　調査の方法

調査票を各学校に郵送し、記入済みの調査票を返送してもらう方法を採用した。

ウ　調査の実施時期　　昭和６３年１月１８日～２月１３日

エ　調査票の回収状況

配布調査票　５５票　　回収調査票　５０票　　回収率　９０.９％

２　第２年次の研究（昭和63年度）のすすめ方

（1）研究のねらい

高等学校教師がどのような考えに立って進路指導を実践しているかについて調査を実施し、教師がかかえている進路指導上の課題を明らかにする。そして、第１年次の研究で実施した調査を含めた三つの調査の総合的な視点から高等学校における進路指導の問題点を整理し、それに対する改善の方策を試みようとするものである。

（2）研究の方法

①「進路指導についての調査」の実施

ア　調査対象者

県内公立高等学校の教師を母集団とし、そこから抽出した教師

イ　調査の方法

調査票を調査対象校（１４校）に郵送し、記入済みの調査票を学校ごと一括返送してもらう方法を採用した。

ウ　調査の実施時期　　昭和６３年１２月８日～１２月２８日

エ　調査票の回収状況

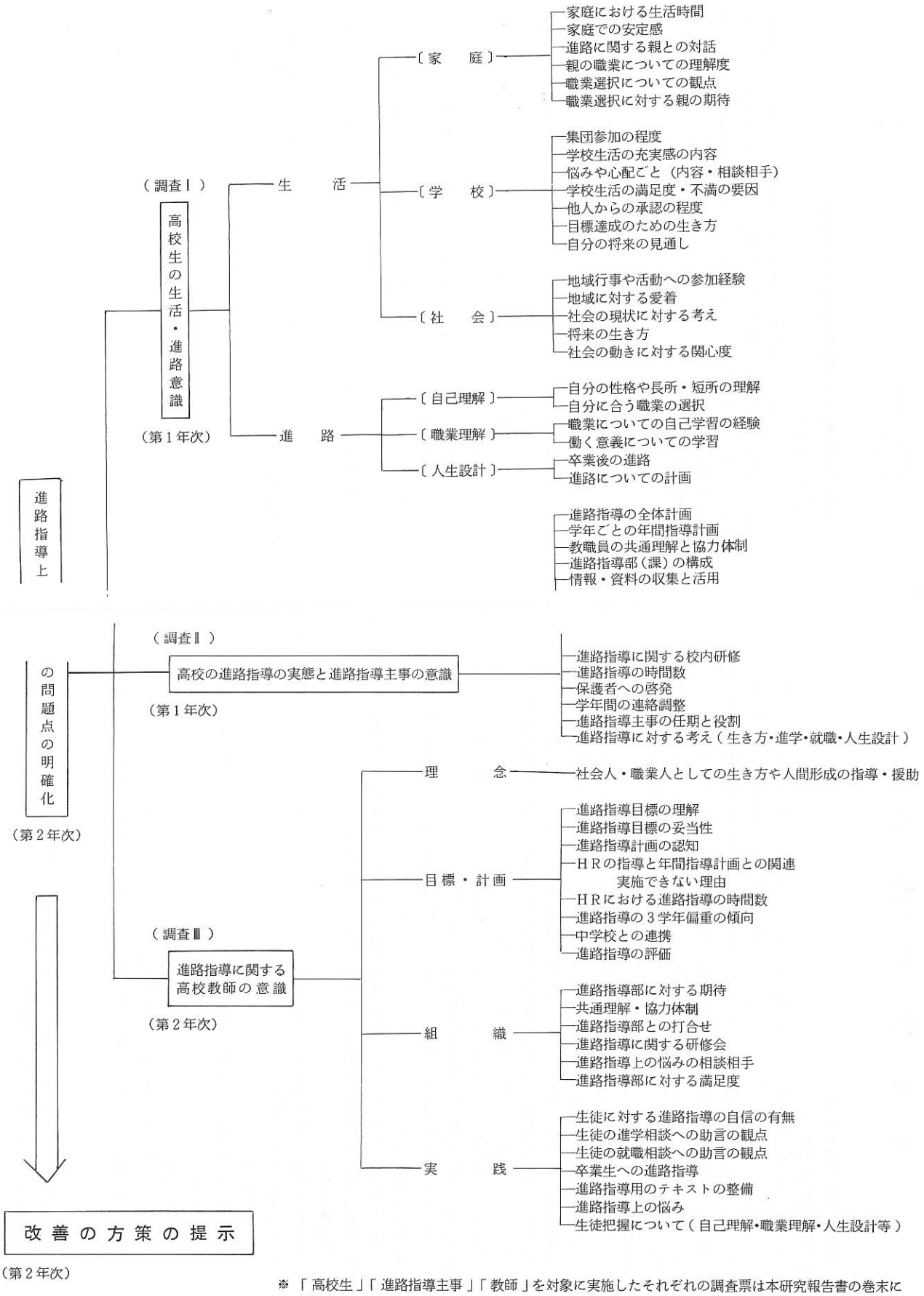
配布調査票　５５３票　　回収調査票　５５１票　　回収率　９９.６％

②　調査の総合的な分析と考察

三つの調査（高校生を対象とする調査・進路指導主事を対象とする調査・高校教師を対象とする調査）の結果を総合的に分析・考察することにより、高等学校における進路指導上の問題点を明確にする。その分析をもとにして、今後の高等学校における進路指導のあり方を考える。

なお、本研究のすすめ方を簡潔に図示すれば、次のようになる。図の右端の事項はそれぞれの調査の質問項目である。

本研究の構造図



※「高校生」「進路指導主事」「教師」を対象に実施したそれぞれの調査票は本研究報告書の巻末に掲載した。

Ⅲ 研　究　の　内　容

1　調査結果の分析と考察

（1）分析の基本的な視点

本研究では課題解決に迫るために三つの調査を実施した。それぞれの調査は前述のとおり独自のねらいを持って実施したものである。そのために、調査方法上に若干の違いがあることも事実である。調査の実施時期は、高校生を対象とする調査と進路指導主事を対象とする調査は昭和62年度に実施し、教師を対象とする調査は昭和63年度に実施したこと。また、対象者については、高校生を対象とする調査と教師を対象とする調査は母集団から抽出したものであり、進路指導主事を対象とする調査は全員を対象としたものである。調査内容についても、実態を把握するものと意識を明らかにするものとがある。

以上のことを前提にしながら、それぞれの調査の結果を個別に分析・考察をするのではなく、三つの調査を総合的に関係づけて分析・考察を試みていきたい。そのために、「進路指導の理念に関すること」「進路指導計画に関すること」「進路指導推進組織に関すること」「進路指導活動に関すること」「進路に関する生徒の意識と教師の生徒理解に関すること」「生徒の生活意識に関すること」の六つの領域にわけて作業に取り組むことにした。

なお、三つの調査にはそれぞれ特質があり、総合的に関連づけて分析することに問題がないとはいえないが、分析する際にその都度説明を加えながらすすめていきたい。

調査結果は、基本的には全体の分析を主にしながら行ったが、必要に応じて職名別・年代別・学科別等の分析も試みた。

なお、本文中で「教師」は、校長、教頭、教諭、助教諭、常勤講師、養護教諭、実習講師を意味し、「教諭」は、教諭のほかに助教諭、常勤講師を意味するものである。

（2）対象者の属性

最初に、各調査の対象者の属性について分析する。

① 高校生を対象とした調査

ア 性別構成

1918名の対象者のうち、男子生徒が1040名（54.2％）であり、女子生徒が878名（45.8％）である。

イ 学科別構成

対象者を学科別にみると、普通科が836名（43.6％）、商業科が303名（15.8％）、農業科が253名（13.2％）、工業科が304名（15.8％）、家政科が222名（11.6％）である。

ウ その他

全体の63.6％（1,220名）が、男女共学の学校に通っており、またほとんどの生徒は自宅から通学している（1,875名　97.8％）。

② 進路指導主事を対象とした調査

ア 学科別構成

50名の進路指導主事のうち、普通科を主とする学校が22名（44％）、普通科と家政科または商業科を併設する学校が8名（16％）、農業科を主とする学校が6名（12％）、商業科のみの学校が7名（14％）、工業科を主とする学校が5名（10％）、その他の学校が2名（4％）である。

イ 学校規模別構成

学校規模別では、3～9学級の学校が9名（18％）、10～15学級の学校が15名（30％）、16学級以上の学校は26名（52％）である。

③ 教師を対象とした調査

ア 職名別構成

「校長・教頭」が25名（4.5％）であり、「教諭・助教諭・常勤講師」が457名（82.9％）、養護教諭が11名（2.0％）、実習講師が58名（10.5％）である。

イ 担任別構成

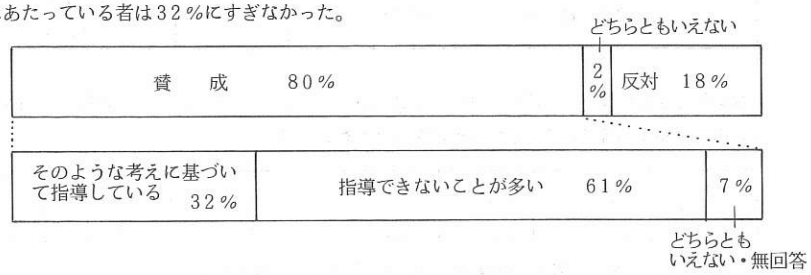
ホームルーム担任の教師は203名であり、そのうち1学年担任が63名（31.0％）、2学年担任が67名（33.0％）、3学年担任が73名（36.0％）である。

ウ 年代別構成

20代の教師は98名（17.8％）、30代110名（20.0％）、40代161名（29.2％）50代以上が179名（32.5％）であり、無回答が3名いる。

（3）進路指導の理念に関する教師の意識

「進路指導は、生徒が自分の個性を知り、それを職業に結びつけて考え、将来自分が果たす役割等を意識しながら生きがいを見いだし、進路の選択・決定ができるよう指導・援助することである」という意見に対して賛成する教師は全体の80％である。昭和62年度実施した進路指導主事を対象とした調査の結果においても全く同じ比率を示している。この数値は職名別、年代別からみても顕著な差がみられない。しかし、賛成意見を持つ教師のうちいつもそのような考えに基づいて指導にあたっている者は32％にすぎなかった。



また、「中学校や高等学校の進路指導が上記のような考え方で行われれば、学業不適応や中途退学の生徒が減少する」と考えている教師は33％であり、減少するとは思わないと答えている教師の方が多く、全体の48％を占めている。

減少すると思う　33％	減少するとは思わない　48％	わからない　17％	2％

無回答

一方、「現在の進路指導は進学や就職の世話のみに偏っている」（進路指導主事を対象とした調査）と考えている進路指導主事は70％であった。

これらのことから、進路指導の理念について多くの教師は基本的に理解を示しているが、現実には理念に基づく活動のむずかしさがうかがわれる。

（4）進路指導計画の実態と計画に関する教師の意識

① 進路指導計画の実態

進路指導主事を対象とした調査によると、進路指導の全体計画や学年毎の進路指導年間計画が作成されている学校は50校のうち47校である。しかも、この47校の高校では個別計画を保護者と連携をとりながら推進していることがわかった。

② 進路指導目標や計画に関する教師の意識

「自校の進路指導目標を理解しているかどうか」についての回答の比率は次のようになる。

理解している　84％	7％	9％

どちらともいえない　理解していない

全体でみると、「どちらともいえない」と「理解していない」を合わせて16％と少なかったが、20代の教諭にかぎってみると32％と多くなっている。年齢が高くなるに従ってその数値が低くなる傾向を示していた。ところで、自校の進路指導目標の適切さについては、62％の教師が適切だと思っており、否定的な印象を持っている教師は16％となっている。

適切だと思う　62％	思わない　16％	わからない　22％

「適切だとは思わない」と答えた教師の理由を調べてみると、「人生の生き方に関する指導援助の位置付けが不明確である」という理由をあげた教師が多い。

①　30％	②13％	③　25％	④　17％	⑤　11％	⑥　4％

① 人生の生き方に関する指導・援助の位置付けが不明確である
② 入学から卒業までの発達段階にそった計画になっていない
③ 生徒が自力で進路を選択・決定する能力を身につける活動の機会が少ない
④ 全教職員で行う指導体制ができていない
⑤ 指導の成果や指導方法等の改善等を図るための努力が不足している
⑥ その他

次に、進路指導計画についての理解度をみると、70％以上の教師から理解されているのは下記の計画である。

- ○進路指導の全体計画 ……82％
- ○進学・就職等に関する指導計画 ……81％
- ○保護者と連携した進路指導計画 ……75％
- ○進路指導部、進路指導委員会等の活動計画 ……74％
- ○卒業生への事後指導計画 ……74％

逆に、50％前後の教師にしか理解されていない計画は

- ○校外諸機関と連携した進路指導計画 ……54％
- ○進路指導に関する教職員の研修計画 ……52％
- ○進路指導の評価に関する計画 ……46％

である。「中学校との連携が図られていると思うか」という質問について、「図られていると思う」と答えた教師は24％と少なく、また、校内研修の参加状況も36％と少なかった。

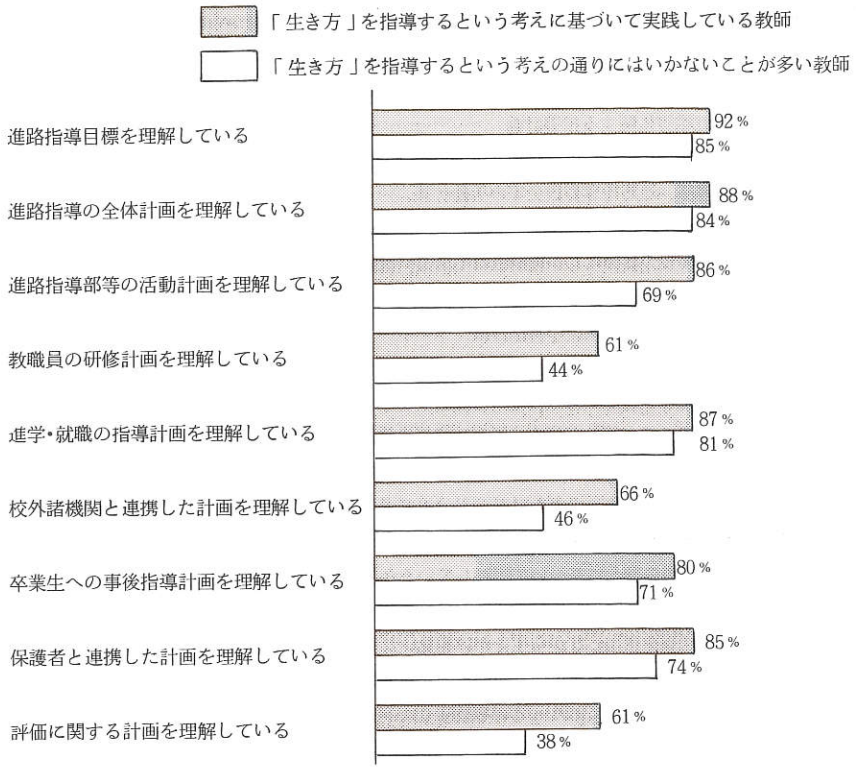
本研究で実施した調査からだけでは、進路指導計画についての教師の理解度と進路指導に対する教師の関心度とが相関するか否かは詳細に分析できなかったが、興味ある結果だといえよう。

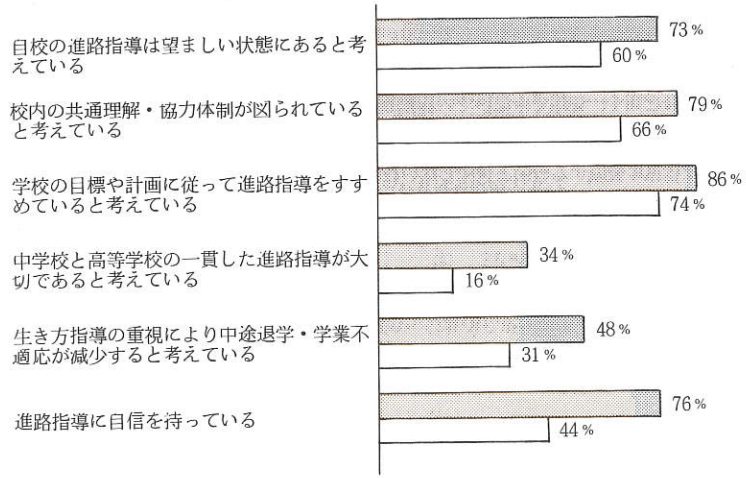
（5）進路指導の理念と計画および実践にかかわる意識

ここでは、進路指導の理念に基づいて実践しているかどうかという視点から分析を試みる。

(3)で述べたように、「進路指導とは、生徒が自分の個性を知り、それを職業に結びつけて考え将来自分が果たす役割等を意識しながら生きがいを見いだし、進路の選択・決定ができるよう指導・援助することである」という意見に80％の教師が賛成している。賛成した教師のうち、いつもその考えにもとづいて進路指導にあたっている教師（以下「実践している教師」という）は32％であった。実践している教師は、実践できないでいる教師よりも学校の進路指導目標や進路指導計画について理解している比率が高い。特に、「進路指導に関する研修計画」「進路指導の評価についての計画」にその傾向が強くあらわれている。また、自校の進路指導の現状認識や進路指導に対する自信の有無についても同じような傾向を示している。特に、日常の進路指導に対する自信の有無については、教師全体のなかで進路指導に自信を持っていると答えた者が53％であったが、実践している教師は76％と高く、実践できないでいる教師の44％と比べて進路指導活動に自信を持つ比率が圧倒的に高い。

このような傾向は意見に賛成する教師と賛成しない教師との間にもいえるが、実践を伴っているかどうかの違いほど顕著にはあらわれていない。





(6) 進路指導推進組織の実態と教師の意識

① 進路指導部(課)の構成について

進路指導部(課)には各学年から一人以上の担任が入っている学校は 50校中 32校でそれほど多くはない。進路指導主事が毎年交替する学校は1校だけであり、ほとんどの学校ではその役割が明確で仕事がしやすいと答えている。しかしながら、進路指導主事は教科の持ち時間が多いことや、部(課)の会議に全員揃うことが少ないことや、進路事務補助員の雇用期間が短いという悩みを抱えている。

質 問 「進路指導部(課)には、各学年から1人以上の担任(学年付き担任)が入っていますか」

全学年から入っている (32校)	入っていない (18校)

質 問 「進路指導主事の任期は、つぎのうちどれに該当しますか」

2～3年で交替する (38校)	②(4校)	③(8校)

②長期間継続の傾向がある ③その他

質 問 「進路指導主事(係)の役割が明確で、仕事がしやすいと思いますか」

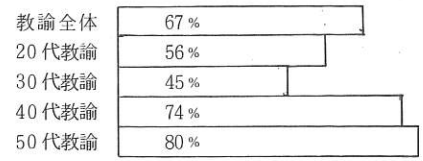
そう思う (39校)	②(6校)	③(5校)

②そうは思わない ③その他

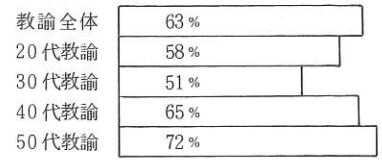
② 進路指導の共通理解と協力体制について

多くの教師は進路指導が全教職員の共通理解と協力体制のもとになされており、自分の学校の進路指導が望ましい状態にあると答えている。また、進路指導に自信があると答えたのは約半数であるが、この3項目を教諭の年代別でみると、いずれも年齢が高くなるほど肯定的な答えの比率が高くなっている。

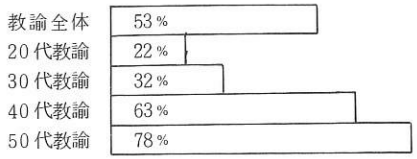
「進路指導が全教職員の共通理解と協力体制のもとに行われていると思う」



「自校の進路指導は望ましい状態にあると思う」



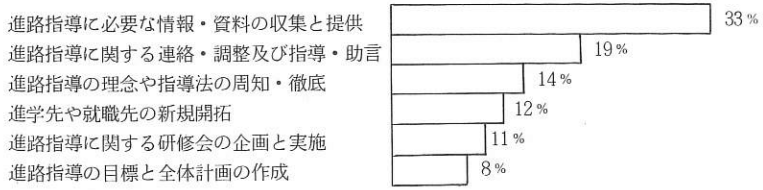
「日常の進路指導に自信がある」



③ 進路指導部（課）の役割について

進路指導部（課）の活動は、教師、生徒、保護者、卒業生、校外機関、等を対象としているが、ここでは教師側からみた進路指導部（課）の役割について分析してみる。

質 問 「進路指導部（課）に最も期待することは何ですか」



「進路指導に必要な情報・資料の収集と提供」に関しては、進路指導主事の66%がそれらを十分に用意し、誰でも利用できるような状態におかれていると答えており、「進路指導に関する連絡・調整と指導・助言」に関しては、進路指導主事の86%がそうしていると答えている。またHR担任の77%が進路指導部（課）と連携していると答えており、70%の教師は進路指導部（課）が自分の期待にこたえていると評価している。

進路指導の理念や指導法の周知・徹底を図る研修会は進路指導主事の調査によれば、半数の学校しか実施されていないし、教師の期待度も低い。

質 問 「進路指導に関して、どのようなことで悩んでいますか」（2つ選ぶ）

進学・就職のうえで生徒の学力が伴わない	59%
生徒が将来の事について真剣に考えていない	40%
将来の産業構造が不透明で自信をもった助言ができない	11%
生徒が就職を希望する事業所からの求人が少ない	10%
進路指導が就職・進学の指導のみに偏っている	10%
進路指導の目標や計画と日常の教育活動に差異がみられる	9%
親子の意見が一致しない	7%
ホームルームでの進路に関する授業の進め方がよくわからない	6%

質 問 「進路指導のことで困ったり悩んだりしたとき、主にどなたに相談しますか」

進路指導主事や進路指導部（課）の教員	54%
同学年の教員	17%
その他の同僚	10%
学年主任	9%

「生徒の学力が伴わない」ことや「将来の事について真剣に考えていない」ということなどについて半数近くの教師が悩んでいる。全体からみると、ホームルームでの進路指導に悩んでいる教師は少ないが、ホームルームの担任に限ってみればその比率が高く、特に第1学年担任の場合は23%にも達している。また、教師の過半数は進路指導上の相談相手として進路指導部（課）員をあげている。

（7）進路指導活動にかかわる教師の意識

① 進路に関する授業時間数

ホームルーム担任が行う進路についての授業は、学年がすすむにつれて実施時間数が多く、特に第3学年の場合「9時間以上」と答えた担任の比率が45%と急に高くなっている。また、ホームルーム担任の75%は、進路に関する授業を「年間計画の通り実施している」と答えている。一方、「年間計画の通り実施出来ない」と答えた教諭の中では、「ホームルームの時間が他に流用されがちである」（43%）という理由が一番多かった。

質 問 昨年度あなたはホームルームにおいて進路に関する授業を何時間実施しましたか。

	1～2時間	3～5時間	6～8時間	9時間以上	実施しない	無回答
1年担任	16%	57%	21%	4%	0%	2%
2年担任	2	51	40	6	1	0
3年担任	0	18	37	45	0	0

質 問 あなたはホームルームの時間に行う進路指導を年間計画の通り実施していますか。

質 問 進路に関する授業を年間計画の通り実施できない主な理由は何ですか

- ホームルームの時間が他に流用されがちである ……43%
- 進路指導に関する資料が不足している ……10%
- 計画されている指導内容が抽象的すぎる ……10%
- 指導方法が難しくよくわからない ……10%
- その他 ……27%

② 進路に関する助言の観点

進学希望の生徒に対する助言の観点については、「生徒の興味・関心や適性」と答えた教師が約60％と一番多く、次いで「生徒の学力」（38％）をあげている。また、就職希望の生徒に対しては、「生徒の適性や能力」をあげた教師の比率が85％と断然高く、以下「安定性や継続性」（8％）、「労働条件」（4％）と続いている。

③ 卒業生へのかかわり方

生徒が卒業したあと、教師はどのような意識で生徒を見守っているだろうか。回答には多少ばらつきがみられるが、約30％の教師は「陰ながら見守っている」と答えている。

質　問　あなたの卒業生に対するかかわり方は、次にあげるどの項目にあてはまりますか。

- 卒業後は生徒も新しい人生を歩み始めるので陰ながら見守っている……32％
- 進学・就職のいずれにしても励まし見守り続ける……26％
- 卒業後も気にはなるが新しい生徒が入学して来るので疎遠になりがちである……22％
- 音信が途絶えない限り励まし見守り続ける……17％
- そ の 他 ……3％

（8）進路に関する生徒の意識と教師の生徒理解

進路意識が形成されるうえで、生徒自身の自己理解の程度や職業観、そしてどのような将来の夢や希望を抱いているか、ということは大事な要素であると思われる。以下、生徒の「自己理解」「職業理解」「人生設計」の順に、生徒の意識と、教師の生徒把握について分析する。

① 「自己理解」

自分の性格や、長所・短所については、おおかたの生徒が「わかっている」と答えており、男女別に見ると、女子の比率（90％）が男子（88％）をやや上回っている。これを学科別に見ると商業科が高く（93％）、農業科がやや低い（83％）。

質　問　あなたは、自分の性格や長所・短所についてどの程度わかっていますか。

生徒全体	①よくわかる 38％	②すこしわかる 51％	③よくわからない 11％

一方、教師は生徒の「自己理解」をどの程度に見ているのであろうか。「生徒は自分の適性について十分に理解していると思うか」という質問に対し、一部の普通科高校を除けば肯定的に答えた教師の比率は低い。教師の属性で分析すると、校長・教頭だけは過半数（52％）が肯定的に答えている。また、教諭の年代別では年齢が高くなるほど肯定的な答の比率が高くなっている。

以上のことから、生徒の意識と教師の生徒把握には大きなずれがあることがわかる。

質　問　あなたの学校の生徒は、自分の適性について十分に理解していると思いますか。

	①そう思う	②	③	④	⑤思わない
教諭全体	2％	②ややそう思う27％	③どちらとも 29％	④あまり思わない 32％	10％
20代教諭	2％	② 20％	③ 24％	④ 44％	⑤ 10％
30代教諭	2％	② 23％	③ 22％	④ 39％	⑤ 14％
40代教諭	4％	② 27％	③ 32％	④ 27％	⑤ 10％
50代教諭	①0％	② 36％	③ 35％	④ 23％	⑤ 6％

② 「職業理解」

高校に入学後、職業をもって働くことの意義について話し合ったり、職場見学や職業人の講話を聞く体験は、あまり多いとは言えない。また、自分に適している職業をあげることができると答えた生徒の比率も全体で過半数に達しなかった。しかし、自分に適した職業をあげることができると答えた生徒の70％強は、その職業について聞いたり、調べたりしている。

質　問　あなたは高校入学後、職業をもって働く意義などについて話し合ったことがありますか。

生徒全体	あ る 30％	な い 70％

質　問　あなたは、高校入学後に職場見学や職業人の講話を聞いたりしたことがありますか。

生徒全体	あ る 43％	な い 57％

質　問　あなたは、自分に適していると思う職業をあげることができますか。

生徒全体	で き る 42％	できない 58％

生徒は、どんな職業にも「社会的な使命や役割がある」ということを、十分認識しているであろうか。調査によれば、生徒全体の約60％はそう思っているが、学科によってはその比率が50％に達せず、多少ばらつきが見られる。また半数を超える教諭が生徒の理解度について否定的であり、それは年齢が若いほど顕著である。

また、「働くことは単に生活の手段にすぎない」と考えている生徒は全体の20％強であるが、

職業の社会的評価による区別を意識している生徒は意外に多く、特に普通科・商業科・工業科が70％前後もの比率に達している。

質　問　あなたは、どんな職業でも社会において使命や役割をになっていると思いますか。

生徒全体	① そう思う 60％	14％ ②そうは思わない	③よくわからない 26％
普通科	① 63％	② 15％	③ 22％
家政科	① 59％	② 9％	③ 32％
商業科	① 59％	② 12％	③ 29％
農業科	① 48％	② 14％	③ 38％
工業科	① 62％	② 16％	③ 22％

質　問　あなたの学校の生徒は、職業の社会的使命や役割を十分に理解していると思いますか。

①そう思う　②ややそう思う　③どちらともいえない　④あまり思わない　⑤思わない

教諭全体	① 2％	② 15％	③ 30％	④ 38％	⑤ 15％

質　問　あなたは、「働くことは単に生活の手段にすぎない」と思いますか。

①そう思う　②そうは思わない　③よくわからない

生徒全体	① 22％	② 58％	③ 20％

質　問　あなたは、職業には社会的評価の高いものとそうでないものとの区別があると思いますか。

生徒全体	① そう思う 65％	②12％ そうは思わない	③ 23％ よくわからない
普通科	① 70％	②11％	③ 19％

家政科	① 59％	② 15％	③ 26％
商業科	① 70％	② 10％	③ 20％
農業科	① 46％	② 15％	③ 39％
工業科	① 69％	② 11％	③ 20％

③「人生設計」

生徒は、高等学校卒業後の進路をどう考えているであろうか。調査では、約10％の生徒が未定と答えており、学科別に見ると農業科が17％であり他の学科にくらべてやや高い。また、家業を継ぎたいと答えた生徒は、農業科が2％であった。

次に、将来の進路達成のための計画については、30％弱の生徒が「計画を立てたことがない」と答えており、その比率は家政科が高く普通科は低い。一方、教師を対象とした調査では、全教諭の約半数が「生徒は将来の人生設計について十分に考えている」とは思っておらず、その比率はホームルーム担任や若い教諭が高い。

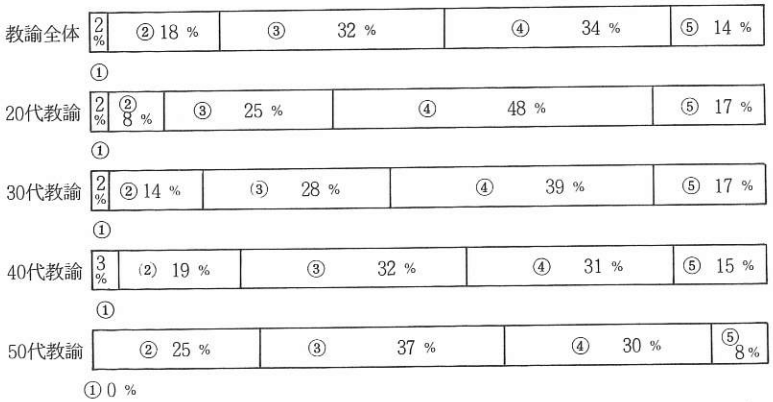
質　問　あなたは、将来の進路についてその達成のための計画を立てたことがありますか。

① きちんと計画を立てたことがある
② 一度ぐらいは計画を立てたことがある
③ 計画を立てたことはないがほぼ見当がつく
④ 計画を立てたことがない

生徒全体	① 8％	② 30％	③ 33％	④ 29％
普通科	① 10％	② 30％	③ 34％	④ 26％
家政科	① 5％	② 35％	③ 28％	④ 32％
商業科	① 6％	② 28％	③ 36％	④ 30％
農業科	① 5％	② 31％	③ 32％	④ 32％
工業科	① 5％	② 27％	③ 37％	④ 31％

質　問　あなたの学校の生徒は、将来の人生設計について十分に考えていると思いますか。

①そう思う　②ややそう思う　③どちらともいえない
④あまり思わない　⑤思わない



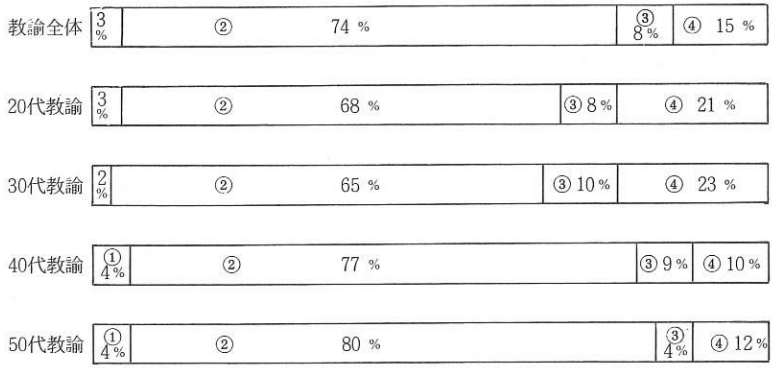
ところで、将来の見通しについて「明るい希望をもっている」と答えた生徒は全体の約20％にすぎず、将来についてあまり期待していないことがわかる。一方、教師を対象とした調査でも全教諭の70％強が「生徒はなんとかなるだろうと思っている」と答えており、その比率は年齢の高い教諭ほど顕著である。

質　問　あなたは、自分の将来に対して、どのような見通しをもっていますか。

① 明るい希望をもっている
② なんとかなるだろうと思っている
③ 明るい見通しをたてにくく不安である
④ 将来について深く考えていない

質　問　あなたの学校の生徒の多くは、自分の将来についてどのような見通しをもっていると思いますか。

① 明るい希望をもっている
② なんとかなるだろうと思っている
③ 見通しをもてず不安でいる
④ 将来のことについて深く考えないでいる



(9) 高校生の生活意識

高校生の進路選択・決定にかかわる能力の育成を図るためには、その指導にあたる教師自身が高校生の生活意識をできるだけ的確に把握しておくことが必要であると思われる。そのような観点にたち、ここでは調査結果をもとにして高校生の生活意識を「家庭生活」「学校生活」「社会生活」の三つの側面から分析する。

① 家庭生活に関する意識

ア 家庭でのすごし方

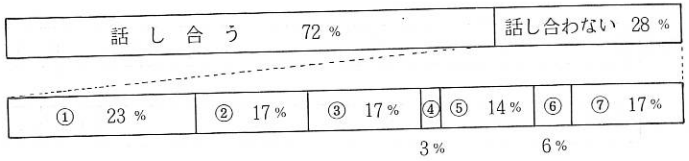
家庭内での生活を見てみると、「家族と団らんする時間」は「30分～1時間」(27%)が最も多いが、1時間を基準にしてみてみると、「1時間未満」(43%)と「1時間以上」(42%)がほぼ同比率である。また、「団らんの時間がない」という高校生は15％もいるが、特にそれは農業科の生徒に多くみられる(25%)。一方、「自分一人で過ごす時間」については、全体の54％が「2時間以上」と答えている。この二つのことから、現在の高校生は家族と団らんするよりも自分一人で過ごすことが多いという傾向を示しているといえよう。このことは女子よりも男子に強くあらわれていた。自分一人で過ごす時間の使い方に関しては、「テレビを見たりオーディオやラジオを聴いたりする」(57%)が最も多く、次いで「予習や復習をしている」(13%)、「なんとなく過ごしている」(11%)の順である。自分の時間の使い方を学科別でみると、テレビ等の視聴は農業科(80%)と工業科(73%)に多くみられ、予習・復習は普通科(23%)に多くみられる。

「家にいる時おちついた気分になるか」という質問に対しては、「おちついた気分になる」と答えたものが80％と高く、この結果からは一応、家庭は高校生にとって安らぎの場といえそうである。

イ 親子関係

72％の生徒は将来の進路について親と話し合っている。「話し合うことがない」と答えた生徒のうち、23％のものは「自分の進路は自分で考えるもの」であるという意見を持ってお

り、「まだ進路について考えていない」という理由をあげたものは17％である。「親に話しかけても意見があわないから」（18％）、「進路に限らず親とはほとんど話をしないから」（14％）など、親との関係をその理由とする生徒もいる。学科別では、「自分の進路は自分で考えるもの」と考えている生徒が工業科に多くみられる（34％）。



① 自分の進路は自分で考えるものと思っているから
② まだ進路について考えていないから
③ 親に話しかけても意見が合わないと思うから
④ 話しかけても、親が相手になってくれないから
⑤ 進路のことにかぎらず、親とはほとんど話し合わないから
⑥ 親と話し合う時間がないから
⑦ ただなんとなく

子どもに対する親の態度については、「ささいなことでもすぐ文句をいう親」と「信頼しあたたかく見守ってくれる親」がそれぞれ21％と一番多く、「子どもの行動に無関心な親」（5％）、「勉強についてのみ熱心な親」（8％）は意外に少ない。

次に、将来の職業選択にかかわることについてみてみよう。子ども自身の職業選択の観点は「自分の個性や能力を生かすことができること」や「働く時間がきちんとしていて、自由に使える時間が多いこと」を強く求めている。一方、職業選択について親が子どもに期待すると思われる観点を子どもの立場から推量させてみると、「平凡であっても安定した生活ができること」や「家から近く、通うのに便利なこと」、「家業を受け継ぐこと」等をあげる生徒が多くみられる。

それでは、高校生は自分の親の職業について理解しているのであろうか。親の仕事の内容についてはほとんどの生徒（94％）が知っていたが、親がどのような喜びや苦しみを持って仕事に従事しているかを知っている者は62％、親の収入について知っている者は46％である。また、親が現在の職業を選択した理由を知っている生徒は45％と半数に満たない。

② 学校生活に関する意識

ア 学校生活の充実感

学校生活に満足している生徒と不満を感じている生徒の数はほぼ同数の約30％であり、どちらともいえないと答えた生徒が39％である。この傾向は、性別でみた場合に顕著な差がみられないが、学科別では若干の違いがみられる。たとえば、家政科の生徒は他の学科の生徒に比べて学校生活に不満を感じているものが多く、逆に、工業科の生徒は満足しているものが多い。不満を感じている生徒がどのようなことに不満を感じているかをみてみると、一番多かったのは「ホームルームの雰囲気」（22％）であり、ついで「学校の規則」が多かった。対教師

との関係を不満の理由にあげる生徒は少なかった。

次に、学校生活において充実感をおぼえる時については、「友達と一緒にいる時」が圧倒的に多く（58％）、「部活動をしている時」は意外に少なかった（11％）。性別では女子が男子に比べて「友達と一緒にいる時」が多かった。なお、学校生活で「満ち足りた気持ちになる時がない」という生徒が21％もいる。前述した学校生活に不満を感じている生徒が3割強であったことを考えあわせると、現実の学校生活に何となく不満を感じている生徒が意外に多いことがうかがえる。

イ 集団活動への参加

校内における集団活動への参加状況を生徒会活動・部活動、ホームルーム活動から調べてみた。部活動に参加していると答えた生徒は全体の半数以上いたが、生徒会活動については6割の生徒に、そしてホームルーム活動には3割の生徒に参加意識が低い傾向がみられた。校内の諸活動に積極的にかかわっていないと答えた生徒がどの活動をみても全体の3分の1以上もいた。特に、それは生徒会活動に強くあらわれている。

「学校生活において他人から認められているか」どうかについての反応では、認められていると答えた生徒の中で最も多かった項目は「友達から」（63％）であり、「部活動の仲間から」（47％）、「ホームルームの人たちから」（47％）、「先生から」の順であった。教師から認められていると思っている生徒は約3分の1しかいない。しかしながら、工業科と農業科は他の学科に比べて、先生に認められていると思っている生徒が多かった。一方、「認められているかどうかわからない」と答えた生徒もかなりみられる。「ホームルームの仲間から」認められているかどうかわからない生徒が44％、「先生から」認められているかどうかわからない生徒が46％もおり、学校内での人間相互のかかわりを知るうえで興味深いデータといえる。

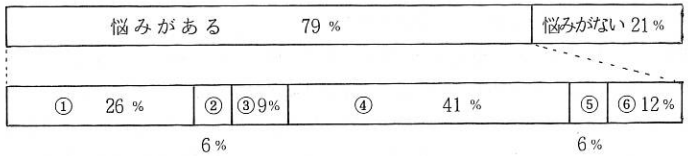
ウ 学校生活における悩み

悩みを持っている生徒は79％おり、男子より女子の方に悩みを持つ生徒が多くみられた（男子73％、女子86％）。学科別では家政科の生徒が91％で一番多く、逆に農業科の生徒は59％と少ない。

悩みの内容としては、「卒業後の進路」が41％と最も高く、ついで「勉強や成績」が26％である。「卒業後の進路」で悩んでいる生徒は工業科（56％）、農業科（52％）に多くみられ、「勉強や成績」で悩んでいる生徒は普通科（35％）が最も高く、それは女子よりも男子に多くみられる（男子31％、女子21％）。「友人」や「異性」など人間関係上の悩みをもつ生徒はきわめて少ない。

悩みの相談相手としては、全体の3分の1以上の生徒が「同じ高校の同学年の生徒」を選んでおり、「親」を相談相手としている生徒は20％である。学科別からみると、工業科の生徒に特徴的な傾向がみられる。それは、「親」を相談相手にする者が27％もおり、「同学年の生徒」に相談する場合とほぼ同数であった。

「先生」を相談相手としている生徒は3％にすぎない。また、悩みを「誰にも相談しない」生徒が約4分の1もいる。



① 勉強や成績のこと
② 友人のこと
③ 異性のこと
④ 卒業後の進路のこと
⑤ 自分の性格のこと
⑥ 家族のこと・体や健康のこと・勉強と部活動の両立のこと・その他

③ 社会生活に関する意識

ア 地域社会とのかかわり

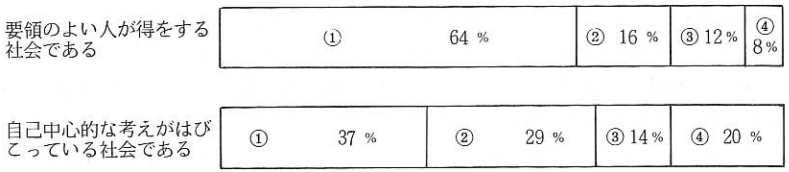
地域での行事や活動に参加した経験の有無については、参加した経験のある生徒が経験のない生徒よりわずかではあるが多い。地域活動に参加した生徒のうち自分からすすんで参加した者と人から誘われて参加した者はほぼ同数である。参加経験を学科別にみると、家政科と農業科が他の学科の生徒よりも地域活動に参加したものが多い（約 70％）。一方、参加経験のない生徒の参加しなかった理由で一番多かったのは、「地域活動等に関心がない」（44%）であり、「身近に地域の行事や活動がない」が 27％、「勉強や部活動が忙しく時間がとれない」が 21％である。今後の参加意欲についても約4割の生徒が参加したいと思っておらず、自分の住んでいる地域の諸活動に関心をもっていない高校生が意外に多いことがうかがえる。

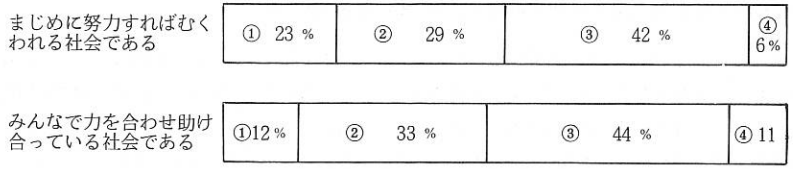
「将来適当な仕事があれば自分の地域に住んでいたいと思う」と答えた生徒は 46％で、特に、農業科の生徒（64%）と工業科の生徒（56%）に多くみられ、普通科の生徒（38%）は少なかった。農業科の生徒は自分の住んでいる地域が好きだと答えた比率も高く、地域に対する愛着の度合いは学科により多少の違いがあらわれている。

イ 社会への関心

現代の世相を高校生がどのようにみているかを次の4つの側面から調べてみた。

①そう思う　②どちらともいえない　③そうは思わない　④わからない





現代の社会を、「要領のよい人が得をしている社会」と考えている生徒が 64％おり、「自己中心的な考えがはびこっている社会」（37%）、「まじめに努力してもむくわれない社会」（42%）、「みんなで力を合わせ助け合っている社会と思わない」（44%）と否定的にとらえている生徒の方が極端に多くみられる。

ほとんどの高校生は新聞やテレビなどで報道される世の中の動きに関心を持っている。彼等が関心を持っている事柄は「事件」と「スポーツ」が主であり、それぞれ全体の3分の1を占めている。残念ながら、国の内外の政治や経済・文化・科学等に関心を持つ生徒は少ない。

ウ 将来の見通しと生き方

自分の将来の見通しについて、「明るい希望を持っている」生徒は 20％に過ぎず、「見通しをたてにくく不安」という生徒は 28％である。「なんとかなる」（41%）と「将来のことを深く考えていない」（11%）をあわせると、高校2年の後半であっても自分の将来の見通しについて真剣に考えていない生徒が半数以上もいることがわかる。この傾向は男女とも同じである。学科別でみると、「明るい希望を持っている」生徒が最も多かったのは工業科で、最も少なかったのは普通科である。

自分の将来の目標を達成するための生き方としては、「将来の目標達成のために、現在の楽しみはある程度おさえて努力するべきだ」が 14％、「将来のことなどわからないので、現在の生活を楽しくおくった方がよい」が 11％であり、両者の間に大きな差がみられず、70％弱の生徒は「将来の目標に向かって努力はするが、現在の生活も十分に楽しみたい」と答えている。

2　高校生の進路選択と決定にかかわる能力の育成を図るために

本研究では、高等学校における進路指導に関する３つの調査（高校生の生活と進路についての調査・高等学校における進路指導についての調査・進路指導についての調査）を実施した。その調査結果についてはⅢの１（調査結果の分析と考察）で詳細に記したが、ここではその結果をふまえて、高校生の進路選択と決定にかかわる能力の育成を図るために、課題と改善の方策を含めて考察していきたい。

（1）進路指導の理念と計画・実践の統合

進路指導の理念上の原理について改めて確認していくことが必要であると考えた。

「中学校・高等学校進路指導の手引き」（文部省）によれば、理念上の原理について次の３点に整理している。

第一に、「進路指導は、進路について知識と価値観と経験などを調和的に統合し、社会人・職業人としての生き方や人間形成の指導・援助を目指す目的的な教育活動」である。第二に、「進路指導は個々の生徒が発達段階に応じて進路上の発達課題に取り組み、その課題を達成することによって進路成熟を促進するように指導・援助する計画的な教育活動」であり、第三には、「進路指導は、個々の生徒が、現在及び将来の社会生活や職業生活の中で、十分な自己充実や自己実現ができる能力・態度を育成する意図的な教育活動」である。

そこで、進路指導の本質は人間形成を目指す教育であるということを再確認し、このことが実際の進路指導をすすめていく上での最も重要な条件であると考えた。

一般的には、「理念は理念にしか過ぎず、現実の進路指導にはあまり関係がない。実際の進路指導を考えた場合、第３学年における進学や就職の指導のほうが重要になるので、このことを効果的に運営すればよい」等の声を時折耳にすることもあり、理念を軽視する風潮があることも事実といえるかもしれない。しかしながら、本研究で実施した調査の結果からみると、生き方や人間形成の指導・援助を目指す教育活動が進路指導の本質であるという考えを持ち、その考えに基づいて進路指導を進めている教師が学校の進路指導に対する理解が高く、また日常の進路指導活動にも自信をもってあたっていることが推察された。そこで、進路指導がより効果的に進められるために今後取り組むべき課題について以下整理していきたいと思う。

第一に、人間形成のための指導援助を目指す教育活動という進路指導の考えを基本とした全体指導計画を策定すること。この当り前のことを学校経営の中で大事にする必要がある。高校教育における進路指導の持つ意義を再確認し、そのことを踏まえた進路指導の全体計画づくりがなされなければならない。理念と計画との統合が図られるように留意してほしいものである。

第二に、上記のようにして策定された進路指導全体計画をより具現化するために、個々の指導計画（たとえば、進路指導部の活動計画、進学・就職の指導計画、保護者との連携による指導計画など）や学年指導計画づくりがなされると思われるが、その際にも上記の考え方に基づいた計画の作成にあたりたいものである。

第三には、諸計画を実践活動に生かすためにはどのような観点から取り組んだら良いのか、その推進策についてもう一度点検する必要があること。ホームルームにおける進路指導のすすめ方と共に、今後は生徒会活動等の特別活動における生き方指導の促進なども重要になってくると思われる。

第四に、校内における相談機能を充実すること。そのためには、相談にあたる人的な整備を図るとともに、相談室などの施設の整備や予算の確保等について検討しなければならない。

最後になるが、たとえ理念に基づいて計画づくりをしたとしても、実際に生徒に対応して活動を展開するのは一人一人の教師である。その意味においても、よりよい進路指導を推進していくための鍵を握っているのは教師自身といえる。教師が「進路指導」を高校教育の中に適切に位置づけて考え、具体的に活動をすすめていくために、進路指導の理念の浸透を図るための校内研修の充実が強く叫ばれなければならない。特に、社会状況の変化等を考慮に入れ、改めて吟味する必要がある。進路指導以外の校務分掌とも関連させた研修の体系化を図り、内容・方法・講師・実施時期など全校的視野から検討していくことも大事ではないだろうか。また、教育は学校だけで行われるものではないということも考慮に入れて、校外の関係機関や家庭等との連携を深めるとともに、校外における進路指導に関する研修にも積極的に参加するなどして自校の進路指導の充実と活性化に寄与することが今後ますます重要と思われる。

（2）特別活動における進路指導の実践

①　ホームルーム担任による進路指導の実践

進路指導は、生徒が自分の人生をどう生きるかという課題について、生徒と共に考え、そのよりよき解決に適切な援助を行うものである。こうした課題のよりよい解決には明るく楽しい雰囲気の中で、生徒が互いに助け合い励ましあえる友情や連帯感に支えられたホームルームが必要である。従って教師は常に生徒と密接な接触を保ちホームルーム内の生徒相互の望ましい人間関係の育成を大切にしなければならないし、生徒の心の奥底にひそむ青年期特有の悩みや疑問に応えて、それらを広く、深い視野から考えさせ自分の職業観や人生観を持つように援助していきたいものである。ホームルーム担任の進路指導上の役割をまとめてみると次のようになる。

- 進路指導部（課）と連携して、ホームルームにおける進路指導の充実・改善に努める。
- ホームルームの生徒の進路指導に関する計画を作成し、指導法を研究するとともに学年別の計画の立案に参画する。
- ホームルームの一人ひとりの生徒を正しく理解し、指導に必要な個人資料を収集し、整理し、解釈し、活用する。
- ホームルームの生徒に適切な進路情報を提供する。
- ホームルームの生徒の保護者との連絡を密にして協力を得るよう努める。
- ホームルームの生徒の進路相談に当たる。

「中学校・高等学校進路指導の手引」（文部省）より

進路指導には個別指導と集団指導と二つあるが、前者は個人面談が主になり、個性や将来の希望も異なり、進路の悩みの違う一人ひとりの生徒を対象とするので、保護者と十分な連携を保って本人の職業的発達を促すような進路相談を年間２回（学年で個人面談月間等を設けて）ぐらい実施したいものである。後者はホームルームや学校行事やその他の特別活動にホームルームで取り組む時やグループカウンセリング等があるが、ロングホームルームでの進路学習が生徒の職業的発達を促し、主体的に自分の進路を計画し、将来の生活に生きがいを見いだしていくきっかけとなれば、前者の個人面談もその効果が一層高まると思われる。

② ロングホームルームのテーマ例と授業展開例

進路指導は「生徒が自分の個性を知り、それを職業に結びつけて考え、将来自分が果たす役割を意識しながら生きがいを見いだし、進路を選択・決定できるよう指導・援助することである」（文部省）ということから、指導項目としては次の４つが考えられる。

① 自己理解（自分の個性と自分のおかれた環境に対する理解）

② 職業理解（将来の職業生活への適応を目指した職業観の確立）

③ 進路計画（自分の進路の吟味と進路の選択・決定計画の策定）

④ 人 生 観（健全な生活態度の形成と人生観の確立）

この４つの項目別の時間数とか、どの学年にどういうテーマを設定するかということは、生徒の進路意識の発達や職業観の形成段階によって違ってくるが、１・２年時には8〜10時間、３年時には７〜８時間の進路学習のロングホームルームの時間が必要であろう。進路学習の時間は生徒による自主的な運営によるものと進路指導部（課）員や担任等によるものとがあるが、前者を大いに活用したいものである。その際には放課後や昼休み等の短い時間の中で準備できるような指導・援助に配慮も必要である。また、その動機づけとしてロングホームルームでの整理の段階で必ず５分間程度確保して次週の予告をさせると、生徒の意欲を喚起できるようである。討論等の場合は、先ず自分の考えをメモし、確認してから話し合いに入る習慣づけをさせたいものである。

テーマの例１は就職を希望する生徒の多いクラスで例２は進学を希望する生徒の多いクラスである。第１学年では将来の進路を考えた高校生活の意義と自分の個性の理解を深め、第２学年では職業理解に重点を置き、正しい職業観の形成をめざし、第３学年では人生観の確立と自己実現の心構えをつくることを目標とした。例１では１学年から進路に関心を持って自分の進路計画を立てて行くように職業理解の項目を多くし、例２では人生における学習の意義と人生観の多様性を理解して、自分の生き方・生きがいを考えてゆくように配慮した。

ロングホームルームにおける進路指導のテーマ（例１）

期	月	１　　年	２　　年	３　　年
一学期	4	高校生活の抱負　① 高校３年間で何をやるか 充実した３年間を送る気構えを作る	もうチョット勉強してみないか　③ 資格のいる職業や勉学の制度を知る 進路希望実現のための道筋の理解	進路を決める手続きについて　③ 日程と学校の規則と方法の確認 進路を決める手だてがわかったか
	5	勉強することは楽しいことである④ 人生と青年期の意味について考える 将来を展望し学習の意欲を喚起する	会社で一番魅力的な仕事は何か？② 仕事をしている現場を見る 職種による仕事内容の差を確認する	職場の様子を知る（先輩の話）　② 就職したらどんな仕事をするのか 職業人としてのイメージができたか
	6	君はどんな進路を選ぶのか　④ 人生における職業の役割を考える 職業の持つ重要性を理解できたか	この仕事の10 年後はこうなる　② 身近な職種の仕事内容を予測する 近い将来の仕事内容を考えられたか	職場の様子を見る（職場見学）　② 自分がやりたい職種を見る 希望する職種の仕事内容の確認
	7	自分の職業適性を考える　① 性格検査 or 進路適性検査 自分の個性を客観的に判断できたか	私の会社ではこんな人がほしい　④ 部活動や成績がどう評価されるか 会社が要求している人物像の確認	就職試験の内容を知る　① 自分の弱いところを勉強しよう 学習計画の見直しと実践の心構え
二学期	8	職種を100かいてみよう　② 産業別に職種をまとめる 産業と職種の区別ができたか	これが求人票だ。ＰＡＲＴ１　② 会社名・職種・初任給等を調べる 求人票の内容と就職の実態を知る	自分を正しく理解してもらうために① 面接試験になれる（模擬面接） 面接試験を受ける準備ができたか
	9	毎日どんな仕事をしているのか　② 仕事の具体的な姿を見る 職種による仕事内容の差を理解する	これが求人票だ。ＰＡＲＴ２　② 仕事の内容や勤務条件を考える 勤務の実態と就職の条件を考えたか	こんな素敵な人生がある　④ 身近な人の人生を考える 将来の見通しを持った進路ができたか
	10	人手が足りなくなる職種は何か　② 産業界の変容とその原因を探る 社会が進展する要因をあげられたか	自分が行きたい会社Ｂｅｓｔ10　③ 進路を決定する条件を考える 自分の進路選択の要素の見直し	自分の生きがいは自分でつくろう④ 仕事に生きがいを見いだしている人 職業と生きがいについて考えられたか
	11	成りたい職業№１はこれだ　③ 高校生の希望職種と自分との比較 自分の進路計画の見直しができたか	結婚や子育てと職業生活との関係② 職業人と家庭人との両立について 人生と職業生活との関わりの理解	私の見てきたいろいろな人生　④ 自分が体験できない人生を知る 価値観の多様性を知る
	12	高校生としてやっておくべきこと③ 今年の本校の就職先について ３年間を見通した進路計画の見直し	人生の格言はこんなに沢山ある　④ 人生観の違いにふれる 人生観の多様性について把握する	月給は何に使う？　② 働く目的を考える 労働の意味づけができたか
三学期	1	私の夢　③ 将来どんな職業につきたいか 夢を実現していく計画をたてたか	私の進路・私の悩み　③ 卒業したらどうするのか考える 自分の進路計画を確認する	10年・20年後の自分　④ 長い目で進路選択を考える 明るい将来の展望ができたか
	2	君の学力はこれで十分か　① 標準学力検査 or 実力テスト 自分の学力を客観的に判断できたか	君の学力は伸びているか　① 就職模擬試験 or 標準学力試験 自分の学力を客観的に把握したか	
	3	私の短所・あなたの長所　① 自分の個性を確認しその評価を知る 自分の特徴を把握したか	今年の本校の進路について　③ 今年の傾向と来年の予想 進路の実態を客観的に把握したか	

表中の項目は上から順に、テーマ（生徒向け）、内容、評価の観点を表す。①〜④は前述の進路指導項目を意味する。

ロングホームルームにおける進路指導のテーマ（例２）

期	月	1　　年	2　　年	3　　年
一学期	4	高校生活の抱負　① 高校３年間で何をやるか 充実した３年間を送る気構えを作る	豊かな社会とは　④ 将来何がどう変わるのか考える 将来を見通した生き方を考える	進路を決める手続きについて　③ 日程と学校の規則と方法の確認 進路を決める手だてがわかったか
	5	国際化･情報化･高齢化社会とは何か その問題点と勉強の意義を知る④ 学習の意義を認め意欲がでてきたか	本校生の進路の実態　③ 何がどう変わっているかを知る 進路計画の見直しができたか	本校生の進路の実態　③ 去年の内容と今年の予想 自分の進路計画の見直し
	6	文系か理系か　③ コース選択の基準・勉強の仕方 文系・理系の内容が理解できたか	「エリートサラリーマン」って何？② 職業人としての生き方を考える 社会の構成員としての職業観の確立	私の見てきたいろいろな人生　④ 自分が体験できない人生を知る 価値観の多様性を認める
	7	私の高校生活（先輩の話）　④ １週間のタイムテーブルを考える 自分の今の生活を反省する	これが大学生活だ（先輩の話）　④ 上級学校での生活内容を知る 生活のアウトラインがつかめたか	あくまで現役、それとも浪人　③ 進路を決める時大切な事を考える 明るい見通しがたったか
二学期	8	大学はどれくらいお金がかかるか　③ 学部･学科の種類とその内容を知る 学部による勉強の違いを理解する	進路の悩みを話そう　③ 今何をしなければならないか 進路計画の見直しができたか	自分にとって一番うれしいことは何か 社会と生きがいについて考える① 生き方の多様性について考える
	9	先輩たちの大学卒業後の進路　② 職業と学部･資格のいる職業を知る 職業と学部との関わりが理解できたか	社会人として認められるということ 働くということはどういうことか② 社会と職業生活との関わりの理解	自分の生きがいは自分でつくろう④ 人生の価値基準について考える 将来の自分のイメージができたか
	10	これが全国の高校生の悩みの実態だ　③ 進路について相談したい事をまとめる 自分の進路計画の見直しができたか	職業の実態を知る　② 仕事の具体的な内容 産業と職種の区別ができたか	人生の失敗とは何か　④ 長い目で人生を考える 挫折を克服する手だてと気力の充実
	11	ボランティア活動について　④ 社会生活と奉仕活動 ゆとりと心の豊かさについて考える	身近な人の生き方を見て　④ 両親･先生･芸能人･尊敬する人 人間として望ましい生き方を考える	人生観いろいろ　④ 文学にあらわれた人生観 人生観の多様性について把握する
	12	自分の職業志向を探る　① 自分の職業適性を考える 自分の個性を客観的に判断できたか	結婚しても続けられる職業　② 性差と職業・結婚と職業等を考える 人生と職業生活との関わりの理解	君は年功序列型か能力業績型か？② 働くことの意味 社会の構成員としての勤労観の理解
三学期	1	私の夢　③ 将来どんな職業につきたいか 夢を実現していく計画をたてたか	産業界におきている変化　② 現実に起きている仕事の変化を知る 現実の厳しさの一端を知る	こんな生き方をしてみたい　④ 素敵だなあと思われる人生 明るい将来の展望ができたか
	2	君の学力はこれで十分か　① 毎日の学習を反省しよう 自分の学力を客観的に判断できたか	我々はどんな評価をされているのか 社会における評価の基準について① 自己を客観的に評価できたか	
	3	私の短所、あなたの長所　① 自分の個性を確認し他人の評価を知る 自分の個性を把握したか	自分の進路を見直してみよう　③ 具体的な目標とその道筋を考える 自分の進路計画の見直し	

表中の項目は上から順に、テーマ（生徒向け）、内容、評価の観点を表す。①～④は前述の進路指導項目を意味する。

進路についての授業展開例(1)

テーマ　「ボランティア活動について」（一年２学期）

テーマ設定の趣旨　ボランティア活動をする人を特別な人とみている傾向があるので、そういう考え方を反省し、社会性を身につける。

ねらい　自己の可能性を拡大し、社会の中で共に生きる姿勢と心豊かな人生を送る態度を身につける。

過　程

	学習内容	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入 20	ボランティア活動をした人の心の変化の過程を知る。	ボランティア活動をした人の作文を読ませて、３行感想文を書かせる。 実際にやっている人や、身近にやっている人がおればその人から経験を話してもらう。	ボランティア活動をした人の作文を読んで３行感想文を書く。（個） 体験談を聞いて活動の様子を知る。（一斉）	指名して読ませる。 地域にどんなニーズがあるのか話してもらう。
展開 20	ボランティア活動に参加できない自分の現状等を考え、ボランティア活動の内容と意義を話し合う。 今、自分が持っている将来に対する不安と他者との関わりについて考える。 今、自分が豊かな社会で何を目標にしているのか考えてみる。 人生の中で趣味や特技の持つ意義と、善意の心と奉仕の行動について考える。	ボランティア活動に対してどういうイメージをもっていたか話し合いをさせる。 マイナスのイメージとして ①カッコつけ、自分の事もできないくせに ②社会的問題の根本を正さない、ごまかし ③良いことだからしなさいという押し付け の３つを例としてあげ、ボランティア活動に参加できない理由を考えさせ、ボランティア活動の意義等について話し合いをさせる。 将来、競争社会で落伍した自分を想定してボランティア活動とどう関わっていくのか考えさせる。 自分たちの置かれている客観的状況について認識させ、今、何をやるべきかについて話し合いをさせる。 豊かな社会で余った時間の使い方と趣味について話し合いをさせる。	ボランティア活動について思っていたことを正直に出して話し合う。（個 → グループ） 自分の持っている本音とたてまえを出して話し合う。（個 → グループ） 自分が社会的弱者になったと仮定して、他者とどう関わっていくのか、あるいは、どう関わって欲しいか話し合う。（個 → グループ） 日頃、不満に思っていることを話し、本音とたてまえを明らかにして他者との関わり方について話し合う。（個 → グループ） 自分の趣味やこれからしたいと思っていることなどを話し、それらを広げて行く価値を認め将来の展望を持つ。（個 → グループ）	生徒の自由な考えを見守る。 自動車事故にあったとか具体的な事例を出す。 自分では善意の行動も悪意に取られることがあることに気づかせる。 自分のわがままに気づかせるようにする。 心があっても行動するノウハウを持っていないとできないことを知らせる。
整理 10	社会の弱者との交流を通して社会に於ける自分の役割を考える。 次週の予告	自分の現在の生活を反省し心のゆとりと他者との関わりを心がけることを指示する。	この時間で一番印象に残ったことを記録ノートに書く。（個）	将来を見通したやる気が出るような話をする。

進路についての授業展開例(2)

テ ー マ　「「エリートサラリーマン」って何？」（二年１学期）

テーマ設定の趣旨　サラリーマンは楽で、いつでも、簡単になれるという生徒の甘い考えを捨てさせる。

ね ら い　サラリーマンと呼ばれる勤労者の仕事内容を知り、自分の職業観を確立する。

過　程

	学習内容	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入 15	サラリーマンの仕事の内容の多様性に気づき、組織の構造を知る。	サラリーマンは楽だと思うものを挙手させて、その理由を言わせる。 サラリーマンの仕事の内容や職名で知っているものを20 以上記録ノートに書かせ、それを発表させ、仕事の内容や職名の多様性に気づかせ、認識の甘さを指摘する。	サラリーマンについて日頃感じていることを発表する。（一斉） サラリーマンの仕事で知っていることを全て書き出してみる。（一斉） サラリーマンの様々な側面を知る。（一斉）	生徒は仕事を軽く考えているのでその責任と持続性について考えさせる。
展開 25	「エリート」と言ったとき連想されるイメージについて話し合い「エリートサラリーマン」と「サラリーマン」の違いを明らかにする。 組織の構成員と限定して「エリート」を定義して、組織の構成員としての責任について考える。 豊かな人生とは何かということを考える。 自分は、どんな分野で働きたいのか、どんな人生を送りたいのか考えてみる。	「エリート」という言葉のもっているイメージについて素直な感想を出させる。 管理的な仕事をする・出世する・社会的な力をもつ等の具体的な中身について話し合いをさせる。 組織の管理層を「エリート」と定義して、「エリート」の責任とそうでない人の責任について話し合いをさせる。 家庭中心の安定志向型と仕事中心の立身出世型の生き方について自分の考えを記録ノートにまとめさせ、発表させる。 仕事を通して社会に貢献したい・趣味や芸術やスポーツを通して社会の融和に役立ちたいという２つの生きがいについて話し合いをさせる。	「エリートサラリーマン」の具体像を書いてエリートについての自分の考えを書く。（一斉） 管理的な仕事と会社の業績 出世する過程とその仕事量 地域社会がスムーズかつ効率的に運営される条件等について話し合う。（グループ） 「エリート」の定義について承認し、その責任を話し合う。（個 → グループ） 左記の２つの生き方を対比させて考え、自分の考えを記録ノートに書き、他人の意見も聞き積極的に話し合う。（個 → グループ） 左記の２つの立場にたった生きがいを参考にして、自分の人生の生き方を真剣に考えて話し合う。（個 → グループ）	今日の社会が一般的には労働によって収入を得る競争社会であることを指摘する。 地位が上がれば収入も多くなることを無視しないようにする。 上に立つ人の責任とその人の生きがいについて考えさせる。 専門職としての「エリート」という考えがでてきたときは、その考え方を認めて、今日の定義に従って話し合いをさせる。 経済的な視点もからませて結論めいたことは出さないようにする。
整理 10	生き方の多様性を認め、自分の生き方についてまとめてみる。 次週の予告	自分の生きがいや個性を考えた職業選択が大切である事を知らせる。	いろいろな仕事を分担して社会が成りたっている事を知り、自分の生き方についてまとめて記録ノートに書く。（個）	進路を考える事の大事なことを強調する。

進路についての授業展開例(3)

テ ー マ　「自分にとって一番うれしいことは何か」（三年２学期）

テーマ設定の趣旨　日本の青年は不満が多いといわれているので、その原因を考え、自分の毎日の生活を反省する。

ね ら い　自分の人生観と統計に現れた人生観を比較して自分の生き方を考える。

過　程

	学習内容	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入 15	自分の将来の生活をイメージして一番うれしいと思われることを具体的に考える。 人生で生きがいを感じる場面がイメージできたらそれも書く。 今、何か不満なこと、イライラしていることがあったら具体的に書く。	どんな人と結婚して、子供は何人いて、どんな仕事をしているか、などと具体的に書かせる。 将来のことを考えて自分の現状を見て不満や要望を具体的に書かせる。	何が一番うれしいか、何をしていれば一番うれしいか具体的に書く。（個） 生きがいを感じる場面をイメージして書く。（個） 日頃、思っていることを具体的に書く。（個）	立派な家を建てて、冷たいビールを飲んでいる時とか、広い牧場で1000 頭の牛を飼って馬に乗っている時等の例を出す。 オートバイに乗っているときというような今の生きがいではなく将来の場面を書くように指示する。 自分の生活を見つめさせるようにする。
展開 25	日本人と英米人の幸せと感じることや生きがいについての違いを知る。 Aやりがいのある仕事をやっている時 家族が健康で楽しい家庭生活である時 B自分のやったことを上司に認められた時 同僚との関係がうまくいっている時 人間関係の中で、現代の青年の特徴である「ツッパリ」・「モラトリアム」「シラケ」について考える。	幸せや生きがいを感じる場面でAは日本人が60%以上で英米人が50%前後なのにBは日本人が30%以下で英米人が60%以上という統計があります。これについて考えさせグループで話し合いをさせる。 日本人は自己だけの満足にかかわることに生きがいや幸せを見いだそうとしている事に気づかせる。 職場や地域社会での人間関係の中に生きがいや幸せを見つけることも大切であることに気づかせる。 自分の行動様式が他人に影響を与え、左記のような行動様式が自分にもあることに気づかせ、よりよい仲間づくりについてグループで話し合いをさせる。	A・Bについて自分の考えをまとめ、グループで話し合う。 生きがいや幸せに対する自分の考えや日本人の統計に現れたイメージやその原因について話し合う。（個 → グループ） 他人に影響されている自分に気づき、自分のやりたいことなどを話し合う。（個 → グループ）	考えがでなかったら、歴史的な背景や戦後の経済的な背景等を示唆する。 自分本位の生き方では幸せになれないことを指摘する。 青年期の特徴等を自分の経験を交えて話し、日頃の不満がでるようにする。
整理 10	社会の中で生きる自分を考え、他人と協調していく生き方を知る。 次週の予告	自分の能力や適性を考えた進路の選択だけでなく、社会の中でどんな仕事をして社会とどんな関わり方をしていくのかという視点があることに気づかせる。	生き方の多様性を認め、この時間に感じたことをまとめる。（個）	

③　その他の特別活動や学校行事における進路指導の実践

種々の生徒会活動や学校行事は、生徒にとって感動体験を得るためのよい機会でもある。教師の工夫によっては、素晴らしい「生き方」学習に発展する。

A高等学校の事例であるが、昭和58年の秋に山形市で開催された障害者の全国大会に、生徒会あげて介助を申し出た。大部分の生徒が、障害者を身近に抱えておらず未知の世界ともいえるこの催しに向けて、まず車イスの扱い方の訓練や予備知識の学習がはじまった。果たして無事に日程をこなせるか不安な気持ちが入りまじる中で大会を迎えたが、生徒たちの真剣な取り組みは、参加した障害者に心から感謝されるところとなった。大会は3日間であったが、生徒は手を取り合い助け合って生きることの大切さを体得したのであった。また、ボランティア活動中に市民から受けたねぎらいの多くの言葉は、生徒に対し生きる喜びと勇気を与えた。二重三重の障害を負っている人々に接しながら、日頃の自分の生き方を振り返るとともに毎日を真剣に生きることの大切さを知ったのである。後日発行された感想文集には「これまでの人生で最高の3日間であった」「障害者の人々に負けないよう真剣に生きていきたい」というようなものが数多く見られた。この学校では、その後も福祉活動を生徒会活動に位置づけて現在も活発に取り組んでおり、教師集団の真摯な指導・助言は生徒の心を大きく揺さぶり続けている。

次にB工業高等学校の事例であるが、昭和61年の7月に全校生徒が深夜の50㎞を全員で踏破する快挙を成し遂げた。この企画は、生徒に勇気と希望を与えることを目的とした学校側の発案であり、教育的意義や安全面等の論議を重ねたうえで実施にこぎつけたものである。米沢市内の松川の河原を夜8時に出発し、一晩中歩き続け朝もやの中、山形市内の学校にたどりつくという実に苛酷な行事であったが、教師と生徒が一体となり共に励まし助け合い、一人の落伍者もなく全員踏破に成功したのである。生徒は、歩き続ける中、通行中の車からの激励の言葉や国道沿いの事業所に勤務する卒業生たちの暖かい心遣いに感激しながら、「やれば出来る」ということを体験したのであった。校門には多くの父母たちが生徒を拍手で迎え、全員がゴールしたあとで1学期の終業式が感激の涙の中で行われた。まさに教師と生徒と父母が一体となった感動的な行事であった。後日出版された記念誌には「生きる勇気が湧いてきた」「あれほどの苦しみを乗り切ったのだから、今後どんな辛いことがあっても克服できる自信がついた」という力強い感想文が数多く掲載されている。学校では、生徒の在学中に一度はこの50㎞踏破を体験させるべく、3年に一度の行事に定着させたいとしている。

以上A・B両高校の事例を紹介したが、両高校に共通していることは、第一に教師集団が生徒に対して「どう生きるか」ということを、体験的に問いかけたことである。いずれも、調査や準備に相当の日時を費やしており、本事例のようなことを日常的に実践するのは困難であるといえるが、教師の工夫と熱意が見事に実を結んだものといえよう。第二に、これらの行事が特に「進路指導」と銘うって行われたものではないことである。進路指導は、「全教育活動を通じて」行われるのであるから、運動会や修学旅行等においてはこのような感動体験の機会を多く取り入れたいものである。冷めた目で社会を見ている生徒が少なくない現在、是非必要なことなのではないだろうか。

(3)　校内における進路指導推進体制の確立

①　学校経営と進路指導体制

「生き方」指導としての進路指導とは、将来生徒が職業生活を通してどう生きていくかという課題解決への援助、すなわち自己の進路を主体的に選択・決定できる能力や職業観・人生観を身につけさせる教育活動である。したがって全教職員が全教育活動を通して組織的・計画的に取り組まなければならず、学校経営の中核に位置づけて、適正かつ効果的に推進していく必要がある。そのための体制として「担任⇄学年⇄進路指導部」の基本的な体制とともに、各分掌の主任等を構成員とする「進路に関する委員会」を設置するなどして推進の円滑化をはかる必要がある。また、学年主任を中心とした学年経営においても、学校の進路指導計画に沿って指導時間を確保し、指導内容の徹底を図る方策を工夫して実践することが望まれる。

②　進路指導主事の役割

進路指導は①で述べたように学校経営の中核に位置づけられるもので、校内のすべての教育活動を通して実践していかなければならないので、進路指導主事は進路指導目標の設定や全体計画の立案に当たりその中心的な存在となり、生徒の進路発達や卒業後の適応状況に即して、適切に改善・整備して個々の計画を推進しなければならない。また、教師・生徒・保護者からの信頼を得て進路に関した相談を持ち込まれるように、正確な情報や資料を収集し、社会情勢を正しく把握して深みのある指導・助言ができるように努めることが大事である。

③　進路指導部（課）の組織

進路指導に関わる教育活動（校内組織の活動計画・校内研修・卒業生の追指導・保護者の進路講座や三者面談・進路指導の評価・学校や職場見学・学年やホームルームでの進路指導等）を企画して実施していく過程はとりわけ進路指導部（課）員の意志統一と綿密な計画が必要である。従って、進路指導部（課）員が進路指導部（課）の会議に全員出席できるように時間割の中に組み込んで置きたいものである。また、進路指導は第1学年から計画的に積み上げていく必要があるので、各学年から一人以上の担任が進路指導部（課）に入っていることが不可欠である。

④　進路指導部（課）の機能

進路指導上の悩みでは、将来の事を真剣に考えていない生徒（40%）・進学や就職のうえで学力の伴わないうわすべりの生徒（59%）の対応に苦慮している。これは第1学年の時から計画的・意図的な進路学習が必要なことを意味しており、校内研修会を実施して生徒の現状を把握して、指導方針の共通理解をはかる必要がある。従来、ともすれば校内における諸活動は学年主導や学科主導のきらいがあったが、特に進路指導に関しては、人間の「生き方」や人間形成の指導・援助である、という考えに基づいた学校全体としての指導でなければならないので、進路指導部課がイニシアティブをとって計画を立て実践して行かなければならない。そこで進路指導部（課）は常に生徒の進路発達の状況を把握して学校・学年の進路指導計画を修正・評価しその企画・運営にあたらなければならない。

⑤　ホームルーム担任と保護者の連携

親の意見や家庭環境は、生徒の進路選択・決定の過程における大きな要因でもある。したがって親には、わが子の能力や適性を十分に把握し、適切な指導・援助を行う責任と義務があるとい

えよう。しかし、すべての親がそのことを自覚して指導・援助にあたっているとは限らず、関心や理解が薄かったり他力に頼らざるを得ない親もけっして少なくないのが現状である。そこで、教師の親に対する適切な働きかけが求められてくる。特に進路指導部（課）は、進路指導全体計画等の立案・実施の際、そのことに十分留意しなければならない。

ところで、生徒の進路に関して個々の親と具体的に話し合う機会が多いのは、やはりホームルーム担任であり、その果たすべき役割はきわめて重大であるといえよう。そこで、ホームルーム担任が親と連携しながら進路指導にあたる際、特にどのようなことに留意したらよいかについて考えてみたい。

まず第一は、入学直後からの一貫した親への働きかけを心がけたいということである。入学の志望動機の確認や、親との信頼関係を早期に確立するうえでもそうありたいものである。

第二は、ホームルーム担任の考えが親に対して押しつけとならないよう配慮することである。親の人生観や職業観には差異があり、教師と同一でないのは当然である。したがって、生徒にものを教えるというような態度で親に対処することなく、常に親と一緒になって生徒の進路を真剣に考えるという姿勢が大事である。

第三は、不正確・不用意な言動に注意することである。なぜなら、そのことによって親からの信頼を失うことも考えられるからである。進路相談等で確答できないような場合には、単独で判断せず進路指導部（課）や学年主任等と十分な連絡をとり確認のうえ返答する必要がある。

第四は、親の明らかな無理解に対しては決して締めないことである。生徒の一度しかない人生を考えれば、ホームルーム担任は生徒の能力・適性を開花すべく、親に対して粘り強く説得を続けるべきである。教師の熱意ある働きかけは、必ずや親の心に通じるであろう。

以上、ホームルーム担任が親と連携して進路指導を進める際に配慮すべきことを述べたが、教師・親の相互信頼関係を築くうえで、ホームルーム担任の日頃の地道な実践がものをいうのは当然である。たとえば、ホームルーム通信の継続的な発行や定期面談、家庭訪問等はきわめて有効であると思われる。教師は、親への働きかけを積極的に行いながら、生徒が自身の能力や適性を十分に発揮できるよう環境を整備し、進路指導にあたりたいものである。

（4）校外の諸機関等との連携

① 連携の意義

もともと地域社会には、青少年の人間性を育てる教育的な機能が存在する。したがって、学校は地域社会の理解と協力を得ながら教育活動を進めることが大事である。特に進路指導の場合、人間としての「在り方・生き方」を考えさせることが一つの大きな課題でもあり、学校が校外の諸機関等と連携を図ることはきわめて意義のあることである。

② 諸機関等との連携

学校は、進路指導における校外機関との連携を具体的にはどのようなかたちで進めればよいのだろうか。

まず考えられることは、第一に小学校・中学校・高等学校の連携であろう。たとえ校種は異なっても、それぞれの教師が児童生徒に対し人間としての「生き方」を指導していることに変わりはない。そこで、児童生徒の発達状況に関する情報を相互に交換するような組織づくりを行いたいものである。第二は、青少年の健全育成に取り組んでいる地域諸団体との連携である。それらの指導者たちは、高校生を地域の各種行事に参加させ、世代交流を通して郷土愛や「共に生きる」心を育んでいる。学校や教師は、これら諸団体の活動に理解を示すとともに指導者たちとの意見交換も活発に行ってはどうだろうか。第三に、社会教育施設との連携を考えてみたい。「青年の家」や「少年自然の家」等が主催する行事には、野外活動や国際交流そして障害者との触れあいなど、いずれも青少年の人間性を高めることをねらいとするものが多い。生徒のみならず教師もまた、これらの行事に積極的に参加したいものである。また、最近は「青年の家」を会場に進路指導のための宿泊研修を行う学校も見られるようになった。第四は、企業との連携である。日頃社員の人格を高めようと努力している企業人を学校に招き、その人間性に触れることは生徒のみならず教師にとっても有意義なことである。その場合、学校・事業所双方は継続的な信頼・協力の関係にあることが大事な要素となる。また、公共職業安定所の専門的職員から県内外の雇用事情等について話を聞く機会を設けることは、生徒の視野を広めるうえから意義のあることである。

次に生徒の学力向上をねらった外部機関の講師による講演会について考えてみたい。それはたしかに生徒の学習意欲を刺激するかもしれない。しかし、講演の内容が各大学・短大の難易度や受験技術にのみ終始するのではいけない。生徒の学問に取り組む意欲を喚起するような講演会となるよう、内容・方法等についても十分に配慮したいものである。

（5）進路指導活動の評価

進路指導についての評価は、年度末の繁忙さからともすればおろそかになりがちであるが、きちんとした評価活動は、進路指導の充実のために欠かせない要件であるといえよう。

① ホームルーム担任の自己評価

1、2年のホームルーム担任は、ホームルームの年間計画を振り返り、進路に関する授業を十分に確保できたか、またその内容が生徒に対して進路意識を高揚させるうえで充実したものであったかということについて自己評価をしたいものである。また、進路相談についても正確な資料や情報に基づいていたか、というようなことも振り返る必要があろう。

3年のホームルーム担任は、特に卒業生個々に対する進路指導について、効果をあげた事例や悔いの残る事例の概要をきちんと記録し、今後の指導、特に後続学年の指導に役立てたいものである。

② 学年としての評価

それぞれの学年の主任は、できれば年度内に進路指導の学年計画とその実践について反省するための会を設定したいものである。そこでは一年間の進路指導の取り組みが、進路指導全体計画に沿ったものであるか、また生徒の発達段階に応じた指導内容であったか、ということについて総括したいものである。

③ 進路指導部（課）としての評価

進路指導主事は、部（課）としての計画や取り組みが本来の高等学校教育並びに自校の教育目標の趣旨に沿ったかたちでなされたか、学年やホームルーム担任そして保護者や校外諸機関との連携が図られていたか振り返ってみたいものである。卒業生の就職先や進学先等も、進路指導の

評価の一観点にはなり得るが、要は個々の生徒がそれぞれの能力や適性を十分に生かした道に進んだか否かが問題なのである。

④ 学校全体としての評価

進路指導部（課）は、各校務分掌や学年においてなされた進路指導に関連すると思われる諸活動を集約し、それを教職員の全体会議に提起し、それぞれの分野ごとの反省を行いたいものである。その際、進学や就職に関する統計のみで単純な評価をしてならないことは当然である。

Ⅳ　研究のまとめとこれからの課題

1　研究のまとめ

本研究は、昭和62、63年度の2カ年にわたる調査・研究をまとめたものであるが、昭和60、61年度にも中学校における進路指導の研究を行った。小学校には、進路指導という言葉は見当たらないが、「生き方」を指導することが本来の進路指導であるという観点から、小・中・高校の一貫した進路指導が大切であるという立場で、本研究を進めてきた。

1年次は、進路指導主事と高校生を対象にアンケート調査を行ったが、特に生徒を対象とした調査では、高校生は現在や将来の社会についてさほど期待していないことがわかった。したがって、教師は、生徒の日常生活の実態や生活意識をきちんと把握したうえで進路指導にあたらねばならない。

また教師を対象とした調査では、年代による意識の差異が目についたが、教職員の共通理解を深め協力体制を確立するためには、なんといっても進路指導部（課）の努力が望まれる。

生徒に対して進路の選択・決定能力を育成しようとする場合、進路指導に関する全体計画やその実践のための体制づくりが重要であること、そして進路指導についての評価を怠ってならないことは、前述した通りであるが、その際に進路指導上の基本理念というものを見失ってはならない。その基本理念とは何度も述べたように、生徒に対し「生き方」を考えさせることにほかならない。

教師は、教科・特別活動・学校行事等において、いつもこの基本理念に基づいた教育活動を行わなければならない。教科指導では、国語科・社会科において「生き方」に関する教材を意図的に取りあげてみてはどうだろうか。また、学校行事等においても生徒の心に感動を与えるものを企画したいものである。なぜなら、生徒は心が高まれば高まるほど、進路意識が高揚すると思われるからである。もし十分に能力を有する生徒が、それを開花できないままでいるとしたら、そのことについての教師の責任は大きいといえよう。生徒一人ひとりに対し、自らの将来について真剣に考えるような進路指導、つまり生徒に「生き方」を問い続ける教師の日常的な進路指導がいま期待されているのではないだろうか。

2　これからの課題

進路指導は、全教育活動を通じて全教職員により行われるのであるが、そのことについての教職員の意識は全体的にやや薄いのではないだろうか。また、「生き方」を考えさせるという進路指導の基本理念に関しても、共通理解が十分に得られてはいないと思われる。

4年間にわたった進路指導に関する本研究は、本年度で一応終るが、上記のように進路指導上の解決すべき課題は多い。今後は、学習指導や生徒指導の面から「生き方」指導のあり方について考えていきたい。

資　料

調査票　1

生徒用

昭和63年1月

進路についての調査

山形県教育センター

お　願　い

山形県教育センターでは、高校生の生活や進路の意識についてまとめてみたいと思っていますので、この調査に協力してください。学校やあなた自身の名前を書く必要はありません。また、あなた自身やあなたの学校に迷惑をかけるようなことはありませんので、率直にお答えください。

質問は全部で28あります。どの質問にも、いくつかの答えが用意されています。その中から、あなたが日ごろ思ったりしていることに最も近いものを一つ選んで、その番号を□の中に記入してください。但し、質問によっては複数の回答を求めるものがあります。質問文をよく読んで回答してください。

回収調査票 1,918　　※質問によっては無回答者がいるため、%の合計が必ずしも100にならないものがある。また、二つの回答を求める質問の場合は、%の合計が200となる。

質問1　あなたは家族と団らんする時間が平日どのくらいありますか。

1. ～30分　（15.6%）
2. 30分～1時間　（27.1%）
3. 1時間～1時間30分　（16.3%）
4. 1時間30分～2時間　（12.3%）
5. 2時間～　（12.8%）
6. 特にない　（15.3%）

質問2　あなたは家庭において自分一人だけすごす時間が平日にどのくらいありますか。（睡眠時間をのぞく）

1. ～1時間　（11.4%）
2. 1～2時間　（24.5%）
3. 2時間～　（54.0%）
4. 特にない　（9.7%）

（質問2で1，2，3のいずれかを選んだ人だけ答えてください）

一人だけですごす時間を、あなたは主に何に使っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

1. 予習や復習をしている　（12.7%）
2. 考えごとをしている　（4.1%）
3. テレビ・ラジオ・オーディオなどを見たり聴いたりしている（56.8%）
4. 新聞を読んでいる　（0.2%）
5. 漫画や雑誌などを読んでいる　（7.0%）
6. 読書をしている　（24%）
7. 絵画・工作・手芸など趣味の活動をしている　（2.7%）
8. なんとなくすごしている　（11.3%）
9. その他（（2.6%）

質問3　あなたはつね日頃、家庭において何か手伝いをしていますか。

1. いつも手伝っている　（22.9%）
2. ときどき手伝っている　（49.5%）
3. あまり手伝ったことがない（17.4%）
4. ほとんど手伝ったことがない（9.7%）

質問4　あなたは家にいる時、おちついた気分になりますか。

1. いつもおちついた気分になる（36.7%）
2. どちらかといえばおちついた気分になる方だ（43.1%）
3. どちらともいえない（14.9%）
4. あまりおちついた気分になれない（3.6%）
5. まったくおちついた気分になれない（1.4%）

質問5　両親のあなたに対する態度について、次の中からもっともあてはまると思うものを2つ選んでください。

1. 私の行動に無関心である（10.1%）
2. 小さなことにでも、すぐに文句を言う（41.1%）
3. 親は自分でよいと思うことを無理やりやらせる（13.1%）
4. 他のことより、学校の成績のことのみに熱心である（16.0%）
5. 私が自分で出来ることでも、すぐ手伝ったりさしずしたりする（10.2%）
6. 私の考えどおりに何でもしてくれる（10.8%）
7. 同じ事をしても、ある時はしかり、ある時はしからないということがある（34.6%）
8. 私を信頼し、暖かくみまもってくれる（40.5%）
9. その他（14.1%）

質問6　あなたは親と、将来の進路について話し合うことがありますか。

1. よく話し合う（13.2%）
2. ときどき話し合う（58.9%）
3. あまり話し合うことがない（20.8%）
4. ほとんど話し合うことがない（6.7%）

（質問6で3または4を選んだ人だけ答えてください）

なぜ、親と話し合わないのですか。次の中からその理由にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

1. まだ進路について考えていないから（17.1%）
2. 親と話し合う時間がとれないから（5.9%）
3. 話しかけても、親が相手になってくれないから（3.0%）
4. 自分の進路は自分で考えるものと思っているから（22.6%）
5. 話しかけても意見があわないと思うから（17.5%）
6. 進路にかぎらず、親とはほとんど話し合わないから（13.7%）
7. ただなんとなく（16.5%）
8. その他　（3.6%）

質問７　あなたは親の職業について、次のことがらについて知っておりますか。

(1)　仕事の内容について
　　1.　知っている（93.7％）　2.　知らない（　5.7％）

(2)　その職業を選んだきっかけや理由について
　　1.　知っている（44.6％）　2.　知らない（55.0％）

(3)　職業をとおしての喜びや苦しみについて
　　1.　知っている（61.8％）　2.　知らない（37.6％）

(4)　一月または一年間のおおよその収入について
　　1.　知っている（45.6％）　2.　知らない（53.9％）

質問８　職業の選択についておききします。

それぞれの質問について、下の１～９の中からあなたの考えに近いものを１つだけ選んでください。

1.　収入が多いこと
2.　世の中の人のためにつくすことが出来ること
3.　働く時間がきちんとしていて、自由に使える時間が多いこと
4.　自分の個性や能力をいかすことが出来ること
5.　平凡であっても安定した生活が出来ること
6.　家から近く、通うのに便利なこと
7.　家業を受けつぐこと
8.　その他　（　　）
9.　わからない

(1)　あなたが職業を選ぶとき、特にどんなことを決め手として考えたいと思いますか。

1.（13.3％）　2.（3.4％）　3.（13.5％）　4.（47.7％）　5.（16.6％）
6.（1.7％）　7.（1.0％）　8.（1.6％）　9.（0.8％）

(2)　あなたの両親は、あなたが職業を選ぶとき、特に何を期待していると思いますか。

1.（12.1％）　2.（3.8％）　3.（3.8％）　4.（14.8％）　5.（34.3％）
6.（14.1％）　7.（6.2％）　8.（0.9％）　9（9.6％）

質問９　あなたは、学校生活の中において次にあげるＡ～Ｃの活動にどのようにかかわっていますか。下の１～５の中からあてはまるものを１つ選んでください。

1.　積極的に参加している
2.　どちらかといえば参加している方だ
3.　どちらともいえない
4.　あまり参加していない
5.　全く参加していない

Ａ．部　活　動　1.（34.4％）　2.（20.2％）　3.（10.9％）　4.（16.6％）　5.（17.7％）
Ｂ．生徒会活動　1.（6.4％）　2.（12.3％）　3.（23.8％）　4.（29.5％）　5.（27.8％）
Ｃ．学級の活動　1.（4.5％）　2.（20.3％）　3.（40.5％）　4.（25.1％）　5.（9.4％）

質問１０　あなたが学校生活の中で満ち足りた気持ちになる時はどんな時でしょうか。

1.　すきな教科の勉強をしている時（5.6％）
2.　友達といっしょにいる時（57.9％）
3.　部活動をしている時（11.4％）
4.　学級や生徒会活動をしている時（0.9％）
5.　その他　（3.3％）
6.　満ち足りた気持ちになる時はほとんどない（20.6％）

質問１１　あなたは今、悩みや心配ごとがありますか。

1.　あ　る（78.7％）
2.　な　い（20.7％）

→（質問１１で１を選んだ人だけ答えてください）

どのような悩みや心配ごとをおもちですか。次の中から２つ選んで、もっとも悩んでいるのには◎、次のものには○をつけてください。

1.　勉強や成績のこと　◎（26.2％）
2.　友人のこと　◎（5.8％）
3.　異性のこと　◎（9.1％）
4.　卒業後の進路のこと　◎（40.5％）
5.　家族のこと　◎（2.6％）
6.　自分の性格のこと　◎（5.6％）
7.　体や健康のこと　◎（2.5％）
8.　勉強と部活動の両立のこと　◎（4.0％）
9.　その他　◎（3.2％）

→（質問１１で１を選んだ人だけ答えてください）

上の質問で◎をつけたことについて、あなたは誰に相談することが多いですか。次の中から１つだけ選んでください。

1.　同じ高校の上級生　（2.0％）
2.　同じ高校の同学年の生徒　（34.2％）
3.　他の高校の上級生　（0.7％）
4.　他の高校の同学年の生徒　（5.4％）
5.　担任の先生　（2.4％）
6.　担任以外の先生　（0.4％）
7.　親　（19.6％）
8.　その他　（3.2％）
9.　誰にも相談しない　（24.0％）

質問１２　あなたは今、学校での生活に満足していますか。

1.　大いに満足している　（2.2％）
2.　まあ満足している　（28.4％）
3.　どちらともいえない　（38.7％）
4.　なんとなく不満である　（19.8％）
5.　まったく不満である　（10.7％）

（質問１２で４または５を選んだ人だけ答えてください）

それでは、どんなことに不満をかんじていますか。

1. 友人との関係　（ 8.5％）
2. 先生との関係　（ 6.8％）
3. 授業のすすめ方（ 8.9％）
4. 部活動　（ 6.8％）
5. 学校の規則　（18.6％）
6. 学級の雰囲気　（22.2％）
7. その他　（ 8.7％）
8. わからない　（18.6％）

質問１３　あなたは、次にあげるＡ～Ｄの人たちから自分がどの程度認められていると思いますか。下の１～４の中からあてはまるものを１つ選んでください。

1. たいへん認められていると思う
2. すこし認められていると思う
3. ほとんど認められていないと思う
4. まったく認められていないと思う
5. わからない

Ａ．学級の人たちから	1.(3.3%)	2.(34.5%)	3.(14.4%)	4.(41%)	5.(43.3%)
Ｂ．友達から	1.(12.3%)	2.(50.6%)	3.(6.8%)	4.(1.6%)	5.(28.3%)
Ｃ．部活動の仲間から	1.(9.9%)	2.(37.3%)	3.(10.0%)	4.(5.8%)	5.(35.9%)
Ｄ．先生から	1.(3.2%)	2.(27.5%)	3.(14.2%)	4.(9.2%)	5.(45.6%)

質問１４　あなたは自分の将来の目標を達成するために、どのような生き方をしたいと思いますか。

1. 将来の目標を達成するために、現在の楽しみはある程度おさえて努力するべきだ（14.0％）
2. 将来の目標に向かって努力はするが、現在の生活も十分に楽しみたい（67.3％）
3. 将来のことなどわからないので、現在の生活を楽しくおくった方がよい（10.8％）
4. わからない（7.8％）

質問１５　あなたは自分の将来にたいしてどのような見通しをもっていますか。

1. 明るい希望をもっている　（20.5％）
2. なんとかなるだろうと思っている　（40.6％）
3. 明るい見通しをたてにくく不安である（27.9％）
4. 将来について深く考えていない　（10.7％）

質問１６　あなたは、高校に入ってから地域の行事（たとえば盆踊りや運動会など）や地域活動（たとえばボランティア活動、子供会の世話、音楽・演劇のサークル活動など）に参加したことがありますか。

1. ある（56.5％）
2. ない（43.5％）

（質問１６で１を選んだ人だけ答えてください）

どのような態度で参加しましたか。

1. 自分からすすんで参加した　（48.7％）
2. 人から誘われて参加した　（51.1％）

（質問１６で２を選んだ人だけ答えてください）

なぜ参加しなかったのですか。

1. 身近に地域の行事や活動がなかったから（27.3％）
2. 勉強や部活動が忙しく時間がとれなかったから（20.9％）
3. 引っ込み思案なので、人の中に入っていけないから（3.7％）
4. 地域の行事や活動に関心がないから（44.1％）
5. その他　（4.5％）

質問１７　今後、あなたは地域の行事や活動に参加したいと思いますか。

1. 参加したいと思う　（22.2％）
2. 参加したいと思わない（38.7％）
3. わからない　（38.9％）

質問１８　あなたは、将来適当な仕事があれば自分の地域に住んでいたいと思いますか。

1. 住んでいたいと思う　（45.9％）
2. 住んでいたいと思わない（30.0％）
3. わからない　（24.0％）

質問１９　あなたは、現在住んでいる地域が好きですか。

1. 好きである　（40.3％）
2. 嫌いである　（15.8％）
3. どちらともいえない（43.7％）

質問２０　今の社会を次のように考える人がおりますが、あなたの気持ちはどうですか。

(1) 自己中心的な考えがはびこっている社会である。
1. そう思う　（37.3％）
2. そうは思わない　（13.8％）
3. どちらともいえない（28.4％）
4. わからない　（20.3％）

(2) 要領のよい人が得をしている社会である。
1. そう思う　（63.7％）
2. そうは思わない　（11.6％）
3. どちらともいえない（16.0％）
4. わからない　（8.6％）

(3) まじめに努力すればむくわれる社会である。
1. そう思う　（22.9％）
2. そうは思わない　（41.6％）
3. どちらともいえない（28.7％）
4. わからない　（6.6％）

(4) みんなで力を合わせ助けあっている社会である
1. そう思う　（11.9％）
2. そうは思わない　（44.5％）
3. どちらともいえない（32.8％）
4. わからない　（10.6％）

質問21　あなたは、新聞・テレビなどで報道される世の中の動きに関心がありますか。

1. 関心がある　（29.6％）
2. 内容によって関心がある　（63.3％）
3. ほとんど関心がない　（5.7％）
4. まったく関心がない　（1.4％）

（質問21で1または2を選んだ人だけ答えてください）

どのような内容に関心がありますか。特に関心があるものを二つ選んでください。

1. 国の内外の政治　（17.9％）
2. 国の内外の経済　（16.1％）
3. 文化　（15.2％）
4. 科学　（12.2％）
5. スポーツ　（62.8％）
6. 事件　（68.8％）
7. その他　（4.1％）

（質問21で3または4を選んだ人だけ答えてください）

関心をもたないのはなぜですか。

1. 自分に直接関係がないから　（31.0％）
2. 面倒なので　（18.3％）
3. 知らなくとも困らないから　（7.0％）
4. 世の中のことがよく分からないから　（35.2％）
5. その他　（7.0％）

質問22　あなたは、自分の性格や長所・短所についてどの程度わかっていますか。

1. よくわかる　（37.8％）
2. すこしわかる　（51.0％）
3. よくわからない　（11.1％）

質問23　あなたは、自分に適していると思う職業をあげることができますか。

1. できる　（41.9％）
2. できない　（57.7％）

（質問23で1を選んだ人だけ答えてください）

あなたは、その職業について聞いたり、調べたりしたことがありますか。

1. ある　（74.3％）
2. ない　（25.7％）

質問24　あなたは高校入学後、いろんな機会に職場を見学したり、職業人の講話など聞いたりしたことがありますか。

1. ある　（42.4％）
2. ない　（57.0％）

質問25　あなたは高校入学後、職業をもって働く意義などについて話し合ったことがありますか。

1. ある　（29.6％）
2. ない　（69.8％）

質問26　職業をもってはたらくことについて、次のような意見がありますが、あなたの考えにもっとも近いものを、それぞれ一つずつ選んでください。

(1)　どんな職業でも、社会においては使命や役割をになっている。
1. そう思う　（59.5％）
2. そうは思わない　（13.8％）
3. よくわからない　（26.4％）

(2)　働くことは、単に「生活の手段」にすぎない。
1. そう思う　（22.1％）
2. そうは思わない　（57.3％）
3. よくわからない　（20.4％）

(3)　職業を考えたとき、社会的評価の高いものと、そうでないものとの区別が現実にはある。
1. そう思う　（65.4％）
2. そうは思わない　（11.8％）
3. よくわからない　（22.6％）

（上記(3)で2を選んだ人だけ答えてください）

それはなぜですか。

1. どんな職業も、働くことは尊いことであるから　（16.8％）
2. いろんな人がそれぞれの個性を発揮しているのであるから　（37.6％）
3. 様々な職業があってこそ世の中は成り立つのであるから　（42.5％）
4. その他　（2.2％）

質問27　あなたは今、高校を卒業したらどのような進路にしたいと思っていますか。

1. 県内に就職したい　（31.2％）
2. 県外に就職したい　（15.1％）
3. 短大に進学したい　（4.3％）
4. 四年制大学に進学したい　（24.8％）
5. 各種学校や専修学校に進学したい　（12.2％）
6. 家業を継ぎたい　（0.5％）
7. 何もしたくない　（1.1％）
8. まだ未定である　（10.3％）

質問28　あなたは将来の進路について、その達成のための計画を立てたことがありますか。

1. きちんと計画を立てたことがある　（7.5％）
2. 一度ぐらいは計画を立てたことがある　（30.1％）
3. 計画をたてたことはないが、ほぼ検討がつく　（33.5％）
4. 計画を立てたことがない　（28.6％）

（質問28で4を選んだ人だけ答えてください）

計画をたてたことがないのは、どのような理由からですか。

1. 計画の立て方がよくわからないから　（44.3％）
2. 計画を立てても、今の社会は不確実でその通りいかないことが多いから　（22.6％）
3. 将来の進路について、真剣に考えたことがないから　（26.8％）
4. その他　（5.3％）

調査票　2

進路指導主事

昭和63年1月

高等学校における進路指導についての調査

山形県教育センター

お　願　い

質問は全部で16あります。どの質問にもいくつかの選択肢が用意されております。

その中から、あなたの学校でなされている進路指導や、あなた自身の進路指導についての考え方に最も近いものを一つ選び、その番号を □ のなかに記入してください。

なお、□欄についても、御面倒でもお書きください。

配布調査票 55　　回収調査票 50　　無回答がいる質問については、%の合計が100にならない。

質問に先だっておたずねします。

Ⅰ　あなたの学校の総学級数は、次のうちどれに該当しますか。

1. 3～9学級　（18%）
2. 10～15学級　（30%）
3. 16学級以上　（52%）

Ⅱ　あなたの学校は、下記のうちどの類型に該当しますか。

1. 普通科（理数科、体育科、音楽科の併置の場合も含む）（44%）
2. 普通科（家政科、商業科の併置の場合も含む）（16%）
3. 農業科（他の学科の併置の場合も含む）（12%）
4. 商業科のみ設置（4%）
5. 工業科（他の学科の併置の場合も含む）（14%）
6. 上記(1)～(5)以外（10%）

質問1　あなたの学校では、進路指導の全体計画がつくられておりますか。

1. つくられている　（94%）
2. つくられていない　（6%）

質問2　あなたの学校では、学年ごとの進路指導年間計画がつくられておりますか。

1. つくられている　（94%）
2. つくられていない　（6%）

質問3　あなたは、あなたの学校の進路指導が全教員の共通理解のもとになされていると思いますか。

1. そう思う　（84%）
2. そうは思わない　（8%）
3. わからない　（8%）

質問4　あなたは、あなたの学校の進路指導を考えたとき、それが全教職員の協力態勢のもとになされていると思いますか。

1. そう思う　（76%）
2. そうは思るない　（16%）
3. わからない　（8%）

質問5　あなたの学校の進路指導部（課）には、各学年から一人以上の担任（学年付き担任）が入っておりますか。

1. 全学年から入っている　（64%）
2. 特定の学年からは入っている　（16%）
3. 入っていない　（20%）

質問6　あなたは、あなたの学校の進路指導計画にある時間数で、必要とする内容の指導ができると思いますか。

1. そう思う　（34%）
2. そうは思わない　（58%）
3. わからない　（8%）

質問7　あなたの学校では、進路指導主事（係）の役割が明確で、仕事がしやすいと思いますか。

1. そう思う　（78%）
2. そうは思わない　（16%）
3. わからない　（6%）

質問8　あなたの学校では、進路指導の進度や内続について、学年ごとの連絡・調整をはかりながら進められていると思いまする。

1. そう思う　（86%）
2. そうは思わむい　（12%）
3. わからい，　（2%）

質問９　あなたの学校では、進路に関して保護者の意識を高めるための手立を講じあおります。
1. 講じている　（94％）
2. 講じていない　（2％）
3. わからない　（4％）

質問１０　あなたの学校では、進路指導の効果的な進めかたや指導上の問題点等について全教職員による校内研修の機会をもっておりますか。
1. もっている　（50％）
2. もっていない　（50％）

質問１１　あなたの学校では、進路に関する情報や資料が十分に用意され、誰でも利用できるような状態におかれていると思いますか。
1. そう思う　（66％）
2. そうは思わない　（30％）
3. わからない　（4％）

質問１２　あなたの学校の進路指導主事の任期は、つぎのうちどれに該当しますか。
1. 毎年のように交替する　（2％）
2. ２～３年で交替する　（76％）
3. 長期間継続の傾向がある　（20％）

質問１３　「人生の生き方について指導・援助することが進路指導の本質である」という意見がありますが、これについてあなたはどう思いますか。
1. そう思う　（84％）
2. そうは思わない　（6％）
3. わからない　（10％）

質問１４　質問13.で１をえらんだ方におたずねします。つぎの中から自分の考えに近いものを一つえらんでください。
1. そのような考えに基づいて仕事にあっている　（26.2％）
2. そのような考えに基づいて仕事をしようと思っても、なかなかそうもいかない現実がある　（73.8％）

質問１５　「いまの進路指導は、ともすると進学や就職の世話をすることのみに重点がおかれている」、という意見がありますが、これについてあなたはどう思いますか。
1. そう思う　（72％）
2. そうは思わない　（26％）
3. わからない　（2％）

調査票　３

昭和63年12月

進路指導についての調査

山形県教育センター

お　願　い

山形県教育センターでは、昨年度より「進路の選択と決定にかかわる能力の育成に関する研究」にとりくんでいます。
そこで、あなたの学校における進路指導についておたずねします。
御回答いただいたこと一切については、あなたや学校に御迷惑をかけるようなことはありませんので、御協力くださいますようお願いいたします。
質問は全部で２５あります。回答は、用意された選択肢の中からあてはまるものを１つ選び、その番号を○で囲んでください。但し、質問２２については２つ選んでください。「その他（　　）」を選んだ場合は、（　）内に具体的なことがらを御記入願います。
なお、各質問の右端の□には何も記入しないでください。

配布調査票553　回収調査票551　質問によっては無回答があり、％の合計が100にならない。

質問１　あなたは、あなたの学校の進路指導の目標を理解しておりますか。
1. よく理解している　（34.4％）
2. ある程度理解している　（49.1％）
3. どちらともいえない　（7.1％）
4. あまり理解していない　（8.5％）
5. 理解していない　（0.5％）

質問２　学校の進路指導に関する①～⑧の計画について、あなたはどの程度理解していますか。それぞれについて□内の１～４の中からあてはまるものを選んでください。

1. よく理解している	2. ある程度理解している
3. あまり理解していない	4. 理解していない

％は略

①進路指導の全体計画	1.(31.0)	2.(50.9)	3.(15.9)	4.(1.6)
②進路指導部（課）、進路指導委員会等の活動計画	1.(26.8)	2.(47.1)	3.(22.8)	4(2.7)
③進路指導に関する教職員の研修計画	1.(17.9)	2(33.9)	3.(54.4)	4.(12.5)
④進学・就職等に関する指導計画	1.(32.2)	2.(48.7)	3.(16.8)	4.(1.6)
⑤校外諸機関と連携した進路指導計画	1.(14.7)	2.(38.9)	3.(35.9)	4.(10.0)
⑥卒業生への事後指導計画	1.(28.3)	2.(45.3)	3.(20.8)	4.(4.7)
⑦保護者と連携した進路指導計画	1.(27.4)	2.(47.3)	3.(21.7)	4.(2.9)
⑧進路指導の評価に関する計画	1.(12.3)	2.(33.2)	3.(40.2)	4.(13.4)

質問 3　あなたは今年度、全教職員を対象とする進路指導の研修会に参加しましたか。

1. 参加した　（36.4％）
2. 参加しなかった　（62.0％）

質問3で2を選んだ方におたずねします。それはなぜですか。

1. 研修に関心がなかったので　（1.8％）
2. 都合がつかなかったので　（11.4％）
3. 研修会が実施されなかったので　（78.1％）
4. その他　（7.6％）

質問 4　あなたの学校の進路指導は、第3学年を中心に行われている傾向があると思いますか。

1. そう思う　（46.7％）
2. そうは思わない　（52.5％）

質問 5　ホームルーム担任の方におたずねします。あなたの学年では進路指導を進めるにあたり、進路指導部（課）と指導内容やその方法等について打ち合わせをしていますか。

1. 頻繁に打ち合わせをしている　（32.6％）
2. 時々打ち合わせをしている　（43.6％）
3. あまり打ち合わせをしていない　（23.9％）

質問 6　あなたは進路指導にあたる際、学校の進路指導目標や計画にしたがって進めていますか。

1. したがっている　（73.7％）
2. あまりしたがっているとはいえない　（18.8％）

質問 7　ホームルーム担任の方におたずねします。あなたは、ホームルームの時間に行う進路指導を年間計画の通り実施していますか。

1. 大体実施している　（76.4％）
2. 思うように実施できない　（23.6％）

質問7で2を選んだ方におたずねします。それは、主として次のうちどの理由からですか。

1. ホームルームの時間が他に流用されがちである　（42.9％）
2. 進路指導についての資料が不足している　（10.2％）
3. 計画されている指導内容が多く時間が足りない　（6.1％）
4. 計画されている指導内容が抽象的すぎる　（10.2％）
5. 指導法が難しくよく分からない　（10.2％）
6. 生徒の意欲や関心が欠如している　（8.2％）
7. 計画を立てなかった　（6.1％）
8. その他　（6.1％）

質問 8　いま、あなたが進路指導部（課）に最も期待することは何ですか。

1. 進路指導の目標と全体計画の作成　（7.4％）
2. 進路指導に必要な情報・資料（ホームルームの授業展開例等）の収集と提供　（32.8％）
3. 進路指導についての連絡・調整および指導・助言　（18.5％）
4. 進路指導に関する研修の企画と実施　（10.9％）
5. 進学や就職に関する開拓　（12.0％）
6. 進路指導の理念や指導法の周知・徹底　（13.9％）
7. その他　（3.4％）

質問 9　あなたは、あなたの学校の進路指導部（課）があなたの期待にこたえていると思いますか。

1. そう思う　（27.0％）
2. ややそう思う　（41.8％）
3. どちらともいえない　（19.2％）
4. あまり思わない　（9.1％）
5. そうは思わない　（2.4％）

質問 10　あなたの学校では、進路指導が全教職員の共通理解と協力態勢のもとに行われていると思いますか。

1. そう思う　（26.4％）
2. ややそう思う　（39.9％）
3. どちらともいえない　（20.8％）
4. あまり思わない　（11.2％）
5. そうは思わない　（1.6％）

質問 11　あなたは、日常の進路指導に自信がありますか。

1. 自信がある　（20.1％）
2. やや自信がある　（29.9％）
3. どちらともいえない　（30.3％）
4. あまり自信がない　（13.8％）
5. 自信がない　（5.1％）

質問 12　あなたは、進路指導のことで困ったり悩んだりしたとき、主にどなたに相談しますか。

1. 校長や教頭　（3.3％）
2. 進路指導主事や進路指導部（課）の教員　（53.5％）
3. 学年主任　（9.1％）
4. 同学年の教員　（16.5％）
5. その他の同僚　（10.3％）
6. 校外の知人や家族・親族　（1.5％）
7. 誰にも相談しない　（1.5％）

質問 13　「中学校・高等学校の一貫した進路指導が大切である」という意見がありますが、あなたの学校では中学校との連携が図られていると思いますか。

1. そう思う　（ 8.9％）
2. ややそう思う　（15.2％）
3. どちらともいえない　（22.3％）
4. あまり思わない　（30.8％）
5. そうは思わない　（21.9％）

質問 14　進路指導は「生徒が自分の個性を知り、それを職業に結びつけて考え、将来自分が果たす役割等を意識しながら生き甲斐を見出だし、進路の選択・決定ができるよう、指導・援助することである。」という意見がありますが、これについてあなたはどう思いますか。

1. そう思う　（79.5％）
2. どちらともいえない　（17.9％）
3. そうは思わない　（ 1.8％）

質問14で1を選んだ方におたずねします。あなたは、いつもそのような考えに基づいて進路指導にあたっていますか。

1. いつもそのような考えに基づいて進路指導にあたっている（32.1％）
2. なかなかそうもいかないことが多い　（61.3％）
3. どちらともいえない　（ 4.6％）

質問 15　中学校や高等学校の進路指導が、質問14「……」のような考え方で行われれば、中途退学や学業不適応の生徒が減少すると思いますか。

1. そう思う　（33.3％）
2. そうは思わない　（47.5％）
3. わからない　（17.4％）

質問 16　あなたは、あなたの学校の進路指導目標が適切であると思いますか。

1. そう思う　（61.6％）
2. そうは思わない　（15.9％）
3. わからない　（21.0％）

質問16で2を選んだ方におたずねします。それはどうしてですか。あなたの考えに最も近い理由を一つあげてください。

1. 人生の生き方に関する指導・援助の位置付けが不明確である　（29.5％）
2. 入学から卒業までの発達段階に沿った指導計画になっていない（125％）
3. 生徒が自力で進路を選択・決定する能力を身につける活動の機会が少ない　（25.0％）
4. 全教職員で行う進路指導の態勢ができていない　（17.0％）
5. 指導の成果や指導方法等の改善を図るための努力が不足している（11.4％）
6. その他　（4.5％）

質問 17　あなたは、生徒が大学や短期大学を選ぶとき、主としてどのような観点で指導助言にあたりますか。

1. 生徒の興味・関心や適性　（58.7％）
2. 生徒の学力　（37.5％）
3. 大学・短大の知名度や名声　（ 0.2％）
4. 大学・短大の所在地　（ 0.2％）
5. 第一に国公立、次に私立の順等（ 0.2％）
6. 大学・短大の学風　（ 0.5％）
7. その他　（ 2.0％）

質問 18　あなたは、生徒が職業を選ぶとき、主としてどのような観点で助言にあたりますか。

1. 生徒の適性や能力　（85.0％）
2. 賃金等の労働条件　（ 3.8％）
3. 安定性や継続性　（ 8.2％）
4. 知名度や名声　（ 0％）
5. 第一に公務員、次に民間企業の順等　（0.4％）
6. その他　（ 2.4％）

質問 19　あなたの卒業生に対するかかわり方は、次にあげるどの項目にあてはまりますか。

1. 進学、就職のいずれにしても励まし見守り続ける　（25.7％）
2. 音信が途絶えない限り励まし見守り続ける　（17.2％）
3. 卒業後も気になるが次々に新しい生徒が入学して来るので疎遠になりがちである　（21.7％）
4. 卒業後は生徒も新しい人生を歩み始めるので陰ながら見守っている　（30.8％）
5. その他　（ 2.7％）

質問 20　あなたの学校では、生徒用の進路指導関係テキストが準備されていますか。

1. 準備されている　（84.8％）
2. 学年によってまちまちである　（ 5.8％）
3. 特に準備されていない　（ 6.9％）

質問 21　昨年度、ホームルーム担任をされた方におたずねします。あなたは、ホームルームにおいて進路に関する授業を何時間実施しましたか（合同ホームルームも含みます）。

	1～2時間	3～5時間	6～8時間	9時間以上	実施しない
1年担任	16％	57％	21％	4％	0％
2年担任	2％	51％	40％	6％	1％
3年担任	0％	18％	37％	45％	0％

質問 22　あなたは、進路指導に関してどのようなことで悩んでいますか。特に悩んでいることを2つ選びその番号に○をつけて下さい。悩みのない方は○をつけなくて結構です。

1. ホームルームでの進路に関する授業の進め方がよくわからない（6.3%）
2. 生徒が就職を希望する事業所からの求人が少ない（10.3%）
3. 進学・就職のうえで生徒の学力が伴わない（59.2%）
4. 生徒が将来のことについて真剣に考えていない（39.7%）
5. 進路指導が就職・進学の指導のみに偏っている（10.1%）
6. 将来の産業構造が不透明で自信をもった助言ができない（13.2%）
7. 進路指導の目標や計画と日常の教育活動に差異が見られる（9.4%）
8. 親子の意見が一致しない（7.2%）
9. その他（3.1%）

質問 23　あなたは、あなたの学校の進路指導が望ましい状態にあると思いますか。

1. そう思う（15.4%）
2. ややそう思う（46.9%）
3. どちらともいえない（26.8%）
4. あまり思わない（7.6%）
5. そうは思わない（3.1%）

質問 24　あなたの学校の生徒についておたずねします。次の①～③について□の中からあてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。

1. そう思う	2. ややそう思う	3. どちらともいえない
4. あまり思わない	5. 思わない	

①自分の適性等について十分に理解していると思いますか
1.(2.0%)　2.(27.5%)　3.(28.8%)　4.(31.3%)　5.(9.8%)

②職業の社会的使命や役割を十分に理解していると思いますか
1.(2.4%)　2.(14.9%)　3.(31.0%)　4.(36.4%)　5.(14.7%)

③将来の人生設計について十分に考えていると思いますか
1.(2.0%)　2.(18.1%)　3.(30.6%)　4.(34.8%)　5.(13.8%)

質問 25　あなたの学校の生徒の多くは、自分の将来についてどのような見通しをもっていると思いますか。

1. 明るい希望をもっている（3.4%）
2. なんとかなるだろうと思っている（73.2%）
3. 見通しをもてず不安でいる（7.8%）
4. 将来のことについて深く考えないでいる（149%）

質問 A　あなたは次のうちどれに該当しますか。

1. 校長・教頭（4.5%）
2. 教諭・助教諭・常勤講師（82.9%）
3. 養護教諭（2.0%）
4. 実習講師（10.5%）

質問Aで2.3.4.を選んだ方におたずねします。あなたは、次のうちどれに該当しますか。学年主任とホームルーム担任を兼務しているときはホームルーム担任を選んでください。

1. 1学年のホームルーム担任（13.9%）
2. 2学年のホームルーム担任（14.8%）
3. 3学年のホームルーム担任（16.1%）
4. ホームルーム担任ではないが学年に所属している（31.3%）
5. 学年に所属していない（24.0%）

質問 B　あなたは、校務分掌上の主任ですか。

1. 主任である　　統計略
2. 主任ではない

質問 C　あなたの年齢は、現在どれに該当しますか。

1. 20代（20.0%）　2. 30代（20.0%）　3. 40代（29.7%）
5. 50歳以上（30.3%）

平成元年３月２０日　印刷
平成元年３月２５日　発行

発行所　山形県教育センター
〒994　天童市大字山元字犬倉津2515
℡　0236（54）2155～9
印刷所　（株）大風印刷天童営業所
〒994　天童市久野本４－16－２
℡　0236 54-5715